

《専門科目》

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）				
担当者氏名	佐藤 牧子、相田 まり				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

「保育実習Ⅰ（保育所）」における豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて中心的に学ぶ。

- ①「保育実習Ⅰ（保育所）」の意義・目的・内容の理解
 - ②「保育実習Ⅰ（保育所）」を円滑に進めるための知識・技術を得る事前準備についての学習
 - ③実習後の学びの振り返りと学習課題の明確化
- また、グループワークや簡単な制作活動も行う。

《授業の到達目標》

- ①「保育実習Ⅰ」の意義・目的・内容について説明することができる。
- ②創造的表現力、問題解決能力等、保育士として乳幼児と関わる上で必要な技能を身に付け実践できる。
- ③子どもやその家族を支援する専門職の責務について説明することができる。

《成績評価の方法》

授業ごとの提出課題・小テスト60%、実習前試験20%、模擬保育20%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』2017、『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』2015／わかば社、『全国保育士会倫理綱領ガイドブック 改訂2版』

《参考図書》

汐見稔幸『保育所保育指針ハンドブック2017年告示版』学研, 2017
 汐見稔幸『平成29年度保育所保育指針まるわかりガイド』チャイルド本社, 2017
 岸井慶子監修『3つのカベをのりこえる！保育実習リアルガイド』学研

《授業時間外学習》

保育実習Ⅰ（保育所）にかかわる活動(模擬保育、絵本の読み聞かせ、手遊び等の練習)を自己学習の中で行う。
 また、教材研究、指導案の作成を行う。
 本科目は自己学習として15時間以上を要する。

《課題に対するフィードバック等》

グループワークへの支援・発言へのコメントや提出課題の振り返りを通して、実習に臨む姿勢や様々な知識・技術の獲得を支援する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	実習の概要 保育実習Ⅰの目的（佐藤）	保育実習指導授業の進め方の確認、保育実習（保育所）概要、目的、目標について学習（ワークシート）〔時間外学習〕実習の意義についてテキストを参考に予習しておく。
2	保育所理解 学外演習の心構え（佐藤・相田）	保育の機能とデイリープログラムを理解する。学外演習にむけて心構え等の準備（ワークシート）〔時間外学習〕子どもとのかかわり方に関して教科書で予習復習する。
3	学外演習（佐藤・相田）	学外において保育の演習を実施する。〔時間外学習〕演習に必要な保育技能の準備(自己紹介、手遊び、絵本の読み聞かせ等)を事前に重ねておく。
4	/	/
5	/	/
6	/	/
7	/	/
8	/	/
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	※本科目は通年15回開講科目である。

《専門科目》

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）				
担当者氏名	佐藤 牧子、相田 まり				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

「保育実習Ⅰ」における豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて中心的に学ぶ。

- ①「保育実習Ⅰ」の意義・目的・内容の理解
 - ②「保育実習Ⅰ」を円滑に進めるための知識・技術を習得と事前準備についての学習
 - ③実習後の学びの振り返りと学習課題の明確化
- また、グループワークや簡単な制作活動も行う。

《授業の到達目標》

- ①「保育実習Ⅰ」の意義・目的・内容について説明することができる。
- ②創造的表現力、問題解決能力等、保育士として乳幼児と関わる上で必要な技能を身に付け実践できる。
- ③子どもやその家族を支援する専門職の責務について説明することができる。

《成績評価の方法》

授業ごとの提出課題・小テスト60%、実習前試験20%、模擬保育20%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』2017、『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』2015／わかば社、『全国保育士会倫理綱領ガイドブック改訂2版』

《参考図書》

汐見稔幸『保育所保育指針ハンドブック2017年告示版』学研, 2017
 汐見稔幸『平成29年度保育所保育指針まるわかりガイド』チャイルド本社, 2017
 岸井慶子監修『3つのカベをのりこえる！保育実習リアルガイド』学研

《授業時間外学習》

保育実習Ⅰにかかわる活動(模擬保育、絵本の読み聞かせ、手遊び等の練習)を自己学習の中で行う。
 また、教材研究、指導案の作成を行う。
 本科目は自己学習として15時間以上を要する。

《課題に対するフィードバック等》

グループワークへの支援・発言へのコメントや提出課題の振り返りを通して、実習に臨む姿勢や様々な知識・技術の獲得を支援する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	*前期実施(佐藤)	※本科目は通年15回開講科目である。
2	*前期実施(佐藤・相田)	*前期実施
3	*前期実施(佐藤・相田)	*前期実施
4	学外演習の事後指導 実習記録の書き方①(佐藤)	学外演習の振り返りを通して、保育実習Ⅰにむけて自己課題を見つけて学修の見通し立てる。実習記録(エピソード)の書き方を修得する。〔時間外学習〕記録の完成。
5	保育士の倫理(相田)	保育の倫理を学び、保育に向かう基本姿勢を修得する。〔時間外学習〕保育士倫理綱領ガイドブックで予習復習する。
6	実習の心構え(相田) 実習課題の立て方	実習に向かう心構えと実習課題の立て方を学び、実習課題に生かす。〔時間外学習〕実習関連書類を完成させる。
7	1日の流れの確認(佐藤) 観察のポイント	保育実習の1日の流れを確認し、計画的に事前準備を行う。観察のポイントおさえる。〔時間外学習〕該当箇所を教科書で予習復習する。
8	乳幼児の理解①(相田) 実習記録の書き方②	事例を通して乳幼児を理解し実習における学びの視点を修得する。実習記録(時系列)の書き方を理解する。〔時間外学習〕実習記録を完成させる。
9	乳幼児の理解①(相田) 指導案の書き方①	事例を通して乳幼児の理解を深めた上で、指導案の書き方を理解する。〔時間外学習〕指導案(絵本の読み聞かせ)を作成する。
10	指導案の書き方②、リエンテーションについて(佐藤)	指導案(絵本の読み聞かせ)の相互添削を行い、指導案の理解を深める。オリエンテーションについて学ぶ。〔時間外学習〕模擬保育の指導案を作成する。
11	実習前試験(相田)	実習前試験の実施(60点以上が合格) 〔時間外学習〕子どもの発達等を含めて実習に関する内容を復習しておく。
12	模擬保育①前半グループ(佐藤・相田)(個別発表)	指導案を元に実践を行い、計画と実践を往還する。自分以外の人の計画と実践から学ぶ。〔時間外学習〕指導案の相互添削および修正。
13	模擬保育②後半グループ(佐藤・相田)(個別発表)	指導案を元に実践を行い、計画と実践を往還する。自分以外の人の計画と実践から学ぶ。〔時間外学習〕指導案の相互添削および修正。
14	学長講話(佐藤) 実習に向けた最終確認	実習に向けて、最終的な心構えと準備を行う。〔時間外学習〕実習準備を行う。
15	事後指導(佐藤・相田)	保育実習Ⅰの振り返りを保育実習Ⅱに生かす。〔時間外学習〕実習および実習指導全体を振り返り自己課題を確認する。

《専門科目》

科目名	教育実習指導 I				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

あそびを通して豊かな人間性を培う幼児教育の特性をふまえ、幼稚園教諭に求められる力について学ぶ。教育実習 I（観察・参加実習）の目的・内容・方法を理解すると共に、幼稚園の機能、役割等を知る。各自が実習課題を明確にし、実習に必要な知識・態度・技術を理解し学習する。実習のねらい達成のため、グループワークによるディスカッションを行う。また、クエスナントにて授業内容の理解度把握を行う。

《授業の到達目標》

〔事前指導〕○教育実習 I（観察・参加実習）の目的と概要を理解し説明することができる。○実習に必要な知識・態度・技術を理解し、準備することができる。○教育実習 I における自己課題を明確にし、表現することができる。
〔事後指導〕○実習の振り返りを通して、客観的な自己評価ができると共に、自己課題を理解し今後の実習に向けた改善方法について表現することができる。

《成績評価の方法》

提出物40%、実習前試験20%、振り返りシート40%で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

①大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規2020②小櫃智子他「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社2015③「実習の手引き」

《参考図書》

○幼稚園教育要領および同解説
○幼保連携型認定こども園教育・保育要領および同解説
○保育用語辞典
○無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研2017
○植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006

《授業時間外学習》

本科目では、次の事項を中心に、29時間の時間外学習を必要とする。①実習の手引きを常に熟読し活用する ②実習用ファイルを用意し、授業内で配布されたプリントを熟読し、提出物の提出日に遅れることがないようにする ③実習用エプロン、名札の作成及び実習で必要とする文書を作成する

《課題に対するフィードバック等》

提出物等は内容を確認した上で受領し、次回授業にてコメントを付して返却を行う。また、授業の中で常に必要な情報を口頭にてフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	事前指導：教育実習の意義	教育実習の意義と実施要件～本学内規より 〔事前学習〕幼稚園教育要領を読み、分からない用語はテキスト④で調べる
2	事前指導：実習先提出書類の作成	実習生調書の作成、オリエンテーション・実習に向けた手続き\実習前試験について 〔事前学習〕テキスト③「実習に行くにあたっての心構え・準備」を読む
3	事前指導：観察・参加実習の実際	幼稚園の1日の流れと実習生の1日 〔事前学習〕実習園の保育方針や1日の流れを調べる
4	事前指導：実習の準備と心構え	実習前試験\実習のテーマ設定 〔事前学習〕試験に向けて準備する
5	事前指導：実習日誌の書き方	実習日誌の書き方・記録の取り方、保育用語と望ましい表現 〔事前学習〕テキスト①のpp. 80 - 91を読む
6	事前指導：実習中、実習後の手続き	マナー・部分実習\実習中のQ&A 実習後の手続き 〔事前学習〕テキスト③「実習前の手続きから実習終了について」を読む
7		
8		※本科目は通年8回開講科目である
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	教育実習指導 I				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

あそびを通して豊かな人間性を培う幼児教育の特性をふまえ、幼稚園教諭に求められる力について学ぶ。教育実習 I（観察・参加実習）の目的、内容・方法を理解すると共に、幼稚園の機能、役割等を知る。各自が実習課題を明確にし、実習に必要な知識、態度・技術を理解し学習する。実習のねらい達成のため、グループワークによるディスカッションを行う。また、クエスナントにて授業内容の理解度把握を行う。

《授業の到達目標》

〔事前指導〕○教育実習 I（観察・参加実習）の目的と概要を理解し、説明することができる。○実習に必要な知識、態度、技術を理解し、準備することができる。○教育実習 I における自己課題を明確にし、表現することができる。
〔事後指導〕○実習の振り返りを通して、客観的な自己評価ができると共に、自己課題を理解し、今後の実習に向けた改善方法について表現することができる。

《成績評価の方法》

提出物40%、実習前試験20%、振り返りシート40%で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

①大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規2020②小櫃智子他「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社2015③「実習の手引き」

《参考図書》

○幼稚園教育要領および同解説
○幼保連携型認定こども園教育・保育要領および同解説
○保育用語辞典
○無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研2017
○植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006

《授業時間外学習》

本科目では、次の事項を中心に、29時間の時間外学修を必要とする。①実習の手引きを常に熟読し活用する ②実習用ファイルを用意し、授業内で配布されたプリントを熟読し、提出物の提出日に遅れることがないようにする ③実習用エプロン、名札の作成及び実習で必要とする文書を作成する

《課題に対するフィードバック等》

提出物等は内容を確認した上で受領し、次回授業にてコメントを付して返却を行う。また、授業の中で常に必要な情報を口頭にてフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	事後指導：実習報告会	2年生からの体験談と今後に向けて（グループディスカッション） 〔事前学習〕実習報告会のパンフレットを読み、質問を考える
2	事後指導：振り返り	実習の振り返り（子どもから学んだこと・保育者から学んだこと） 〔事前学習〕実習日誌を読み学びを振り返る
3		
4		※本科目は通年8回開講科目である
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

①大学での学修の特徴について説明できる。②共同学習の重要性について説明できる。③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。④SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。⑤卒業研究発表会に参加し、発表内容や研究の進め方に対する質問をすることができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集及び卒業研究概要集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、明確にする。 ＜準備学習＞大学の授業のイメージを発表できるようにする。
2	SDG s について①	SDG s の「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出する。＜準備学習＞SDG s について自分なりに調べておく。
3	SDG s について②	上記の課題や問題点について現状を調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめる。＜準備学習＞SDG s の取組の背景について説明できるようにする。
4	SDG s について③	前次に作成したプロダクトについて発表する（質疑・応答を含む）。＜準備学習＞大学ホームページで本学のSDG s の取組を知る。
5	ゼミの内容理解①	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。＜準備学習＞卒業研究発表会のポスター資料を見ておく。
6	ゼミの内容理解②	前次に作成したプロダクトについて発表する（質疑・応答を含む）。＜準備学習＞ゼミインタビューの結果を整理し発表の準備をする。
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。＜準備学習＞「著作権」について調べ、卒業研究との関連を考える。
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。＜事前学習＞大学図書館で、卒業研究論文抄録のある書架の場所を確認しておく。
9	個人研究課題の検討①	過去の論文抄録について調査し、「教育学ゼミ」の研究課題について知る。＜準備学習＞「教育学」という学問の研究領域に含まれる事柄について調べる。
10	個人研究課題の検討②	SDG s の目標との関係に留意し、取り組んでみたい研究課題を複数検討する。＜準備学習＞SDG s についての学びの内容を、特に17種類の目標中心に振り返っておく。
11	個人研究課題の検討③	個人研究課題を決定し、研究の進め方や方法についてグループで話し合う。＜準備学習＞同じゼミ内の個人研究テーマを互いに情報共有しておく。
12	調査・研究①	文献・資料の検索①：情報検索の手立てについて知る。＜準備学習＞「CiNii」について、その内容や活用の仕方について調べておく。
13	調査・研究②	文献・資料の検索②：情報収集。収集結果の記録。＜準備学習＞自分の研究テーマに関する情報をできるだけ多く収集する。
14	調査・研究③	2年生の「教育学ゼミ」の取組を見学し、研究資料収集のヒントを掴む。＜準備学習＞自分の研究テーマに関して収集した情報を整理しておく。
15	調査・研究④	文献・資料の検索③自分の研究テーマとSDGsとの関わりについて検討する。＜準備学習＞2～4回のSDGsについての学びを振り返り、自分の研究テーマとの関連を整理する。

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

①大学での学修の特徴について説明できる。②共同学習の重要性について説明できる。③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。④SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。⑤卒業研究発表会に参加し、発表内容や研究の進め方に対する質問をすることができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集、卒業研究論文概要集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	後期の活動内容の確認	ゼミ全体、及び個人研究の取組について、後期の見通しを持つ。＜準備学習＞前期の学修内容を整理し、後期の課題を説明できるようにしておく。
2	個人研究レポート作成準備	これまでに収集した資料を整理し、個人研究レポート作成の準備をする。＜準備学習＞実際の卒業研究の個人論文について、項目や内容を調べておく。
3	個人研究レポートの作成①	個人研究レポートの基本的な書式や項目を知り、各項目について下書きをする。＜準備学習＞自分の研究テーマについて、収集した情報を整理しておく。
4	個人研究レポートの作成②	これまで収集した情報をもとに、個人研究レポートの下書きを進める。＜準備学習＞これまでに収集した情報を整理しておく。
5	個人研究レポートの作成③	個人研究レポートの下書きを進め、完成に向けた課題を整理する。＜準備学習＞項目ごとの要旨を整理して置く。
6	個人研究レポートの作成④	個人研究レポートについて、完成・発表に向けて、互いに情報を交換し合う。＜準備学習＞個人研究レポートのテーマや内容に関する情報を共有しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	五峯祭の取組（幼児絵画展表彰式）について、内容や役割分担を検討する。（1・2年生合同）＜準備学習＞昨年の幼児絵画展の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備①	幼児絵画展表彰式運営の準備①：役割の内容や分担について確認する。＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備②	幼児絵画展表彰式運営の準備②：役割、分担ごとに動きを確認し練習をする。式場づくり。＜準備学習＞表彰式の流れを確認し、役割ごとに練習をしておく。
10	五峯祭当日の取組	第41回幼児絵画展表彰式の運営。＜準備学習＞五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに、案内・誘導・司会などの練習をしておく。
11	個人研究レポートの作成⑤	個人研究レポートに対する個人指導①。＜準備学習＞個人研究レポートの完成に向けた課題を整理し、質問できるようにしておく。
12	個人研究レポートの作成⑥	個人研究レポートに対する個人指導②。＜準備学習＞個人研究レポートの完成に向けた課題を整理し、質問できるようにしておく。
13	個人研究レポートの作成⑦	個人指導を踏まえ、発表資料を作成する。＜準備学習＞個人指導の内容について、互いに情報を交換し合い、発表資料作成の準備をする。
14	卒業研究発表会リハーサル	1・2年生合同で発表会リハーサルを行い、研究成果の発表準備をする。＜準備学習＞グループ概要に基づき、質問事項を考えておく。
15	卒業研究発表会参加	2年生の発表会に参加し、来年の研究に向けた情報を収集するための準備をする。（1・2年生合同）＜準備学習＞発表会当日の流れ、会場の状況などについて確認する。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。本ゼミでは、健康・幼児体育に関連する領域から取り組む。

《授業の到達目標》

①大学での学修の特徴について説明できる。②共同学習の重要性について説明できる。③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。④SDG sの目標の内容と、達成に向けた取組の意義を説明できる。⑤卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

○世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」2018年
○石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
○本学の卒業研究論文概要集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題には、適宜、口頭やペーパーにて指導・助言を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、チュートリアルを通して明確にする。〔授業時間外学習〕授業の違いを整理する（復習 1 時間）
2	SDGsについて(1)	SDGsの「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出。〔授業時間外学習〕SDGsに関する記事を調査する（予習・復習 1 時間）
3	SDGsについて(2)	課題や問題点について調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめ、発表する。〔授業時間外学習〕プロダクトに関する予備情報を調査する（予習 1 時間）
4	SDGsについて(3)	地域とのつながりについて考える。〔授業時間外学習〕さいたま市発祥の農産物を調べておくこと（復習 1 時間）
5	ゼミの内容理解(1)	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。〔授業時間外学習〕調査する研究領域や質問事項をまとめる（予習 1 時間）
6	ゼミの内容理解(2)	前次に作成したプロダクトについて発表する（質疑・応答を含む）。〔授業時間外学習〕各グループの発表内容についてまとめる（復習 1 時間）
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。〔授業時間外学習〕HP等で研究倫理に関する記事を調査する（予習・復習 1 時間）
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する〔事後学習〕興味のある卒業論文を要約する
9	情報を探し出す	情報の探索と収集について学ぶ 〔事前学習〕情報の収集の仕方について考える
10	情報の整理と分析	収集した資料の保管と整理について学ぶ 〔事前学習〕SDGsの中で興味あるテーマに関する文献をプリントアウトする
11	研究テーマを探す①	健康にかかわる事象について考える 〔事前学習〕前時の配布資料を読む
12	研究テーマを探す②	健康にかかわる事象について考える 〔事後学習〕健康にかかわる事象の範囲を整理する
13	研究テーマを探す③	幼児体育にかかわる事象について考える 〔事前学習〕前時の配布資料を読む
14	研究テーマを探す④	幼児体育にかかわる事象について考える 〔事前学習〕幼児体育にかかわる事象の範囲を整理する
15	五峯祭に向けて①	五峯祭参加に向けて、ゼミの活動（コーナー遊び）を考える 〔準備学習〕コーナー遊びについて調べる

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。本ゼミでは、健康・幼児体育に関連する領域から取り組む。

《授業の到達目標》

①大学での学修の特徴について説明できる。②共同学習の重要性について説明できる。③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。④SDGsの目標の内容と、達成に向けた取組の意義を説明できる。⑤卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

○世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」2018年
○石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
○本学の卒業研究論文概要集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題には、適宜、口頭やペーパーにて指導・助言を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	研究テーマを探す⑤	文献をまとめる 〔事前学習〕興味のあるテーマについて文献を調べる
2	研究テーマを探す⑥	文献をまとめる 〔事前学習〕興味のあるテーマについて文献を調べる
3	研究の進め方①	興味あるテーマの研究方法を整理する 〔事前学習〕興味あるテーマの先行研究を集める
4	研究の進め方②	整理した研究方法を発表し、多様な研究方法について学ぶ 〔事前学習〕発表に向けて、調べた研究方法についてまとめる
5	研究の進め方③	興味あるテーマについて、アウトラインを作成する 〔事前学習〕興味あるテーマに関する文献・資料を整理する
6	研究の進め方④	アウトラインにそって、資料を整理する 〔事後学習〕レポートにまとめる
7	五峯祭に向けて②	コーナー遊びにおける安全配慮について考える 〔事前学習〕幼児期の安全配慮について調べる
8	五峯祭の準備①	コーナー遊びの準備をする 〔事前学習〕コーナー遊びに必要なものを準備する
9	五峯祭の準備②	コーナー遊びの準備をする 〔事前学習〕コーナー遊びに必要なものを準備する
10	五峯祭	来場者の活動を援助する 〔事後学習〕五峯祭での活動を振り返り、学びをまとめる
11	次年度に向けての準備①	研究の方向性を検討する 〔事前準備〕これまで集めた資料を整理する
12	次年度に向けての準備②	研究テーマを検討する 〔事前準備〕これまで集めた資料を整理する
13	次年度に向けての準備③	研究テーマを焦点化し、研究方法を考える 〔事前準備〕これまで集めた資料を整理する
14	次年度に向けての準備④	次年度の研究計画を考える 〔事前準備〕これまで集めた資料を整理する
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会の参加、興味がある研究領域について研究内容を理解する。 〔事後学習〕発表会から得た学びをまとめる

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅠ				
担当者氏名	古木 竜太、越智 光輝、大野 琴絵				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

前半（第1～7次）は全研究領域共通で、卒業研究論文の執筆に関する基礎的な知識を学ぶ。後半（第8～15次）は、表現の基本的技能を修得するための練習に取り組む。最終的には、他者と協働して表現発表会の作品に取り組み、表現技術を身につける。

《授業の到達目標》

表現に関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。①イメージを豊にして、自らの発想を様々な方法を用いて表現することができる。②本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような表現法を修得し、実践できる。③担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

- ①世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」2018年
- ②石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
- ③本学卒業研究論文概要集

《授業時間外学習》

履修者専用のTEAMSを作成し、毎回の授業の活動内容について記述する。パフォーマンスは適宜、動画で撮影してTEAMSに保存する。デジタル背景などデータで保存できる製作物もTEAMSにおいて共有する。総合表現の質向上を目標として自主練習や自主製作を行う。

《課題に対するフィードバック等》

履修者専用TEAMSを活用して、指導教員からその都度適宜指導・助言する。助言内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校と大学の学びの違い、大学の学びに必要な学習スキルについて、チュートリアルを通して明確にする。〔授業時間外学習〕授業の違いを整理する（復習 1 時間）
2	SDG s について（1）	SDGsの[17の目標]について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出。〔授業時間外学習〕SDGsに関する予備情報を調査する（予習・復習 1 時間）
3	SDG s について（2）	課題や問題点について調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめ、発表する。〔授業時間外学習〕プロダクトに関する予備情報を調査する（予習 1 時間）
4	SDG s について（3）	地域とのつながりについて考える。〔授業時間外学習〕さいたま市発祥の農産物を調べておくこと（復習 1 時間）
5	ゼミの内容理解（1）	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。〔授業時間外学習〕調査する研究領域や質問事項をまとめる（予習 1 時間）
6	ゼミの内容理解（2）	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。〔授業時間外学習〕調査する研究領域や質問事項をまとめる（予習 1 時間）
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。〔授業時間外学習〕HP等で研究倫理に関する記事を調査する（予習・復習 1 時間）
8	研究テーマの展望	オペレッタで取り組む作品について理解を深める。〔授業時間外学習〕「不思議の国のアリス」に関する文献を調査する。（予習・復習 1 時間）
9	担当分野の活動（1）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習 1 時間）
10	担当分野の活動（2）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習 1 時間）
11	担当分野の活動（3）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習 1 時間）
12	担当分野の活動（4）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習 1 時間）
13	担当分野の活動（5）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習 1 時間）
14	小発表会のためのリハーサル（プレ本番）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
15	作品小発表会	前期学習内容のまとめとして、ゼミ内で小発表会を行う。〔準備学習〕前期授業の総括、自他のパフォーマンスを振り返り、課題などレポートにまとめる（復習1時間）。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅠ				
担当者氏名	古木 竜太、越智 光輝、大野 琴絵				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

多くの幼稚園や保育園では、「表現発表会」という年中行事がある。この表現発表会では主にオペレッタ、リズム劇や遊戯などが行われ、クラス担任が指導・援助しているケースが多い。そこで、本授業では、歌や踊り、台詞の練習、衣装や舞台装置の製作など、グループワークを通じて総合的にオペレッタを学び、その学修成果を本学の文化祭（五峯祭）や学外施設で披露する。

《授業の到達目標》

オペレッタに関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。①本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような演技方や歌い方を修得し、実践できる。②子どもが演じることを念頭に置き、表現領域に関する指導・援助の留意点について説明できる。③担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、活動記録などの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

- ①『たのしいオペレッタ』音楽之友社
- ②浅野ななみ『浅野ななみの発表会はお・ま・か・せ 劇あそびとミニオペレッタ CDつき保育選書』ひかりのくに
- ③本学の「卒業研究概要集」

《授業時間外学習》

履修者専用のTEAMSを作成し、毎回の授業の活動内容について記述する。パフォーマンスは適宜、動画で撮影してTEAMSに保存する。デジタル背景などデータで保存できる製作物もTEAMSにおいて共有する。総合表現の質向上を目標として自主練習や自主製作を行う。

《課題に対するフィードバック等》

履修者専用TEAMSを活用して、指導教員からその都度適宜指導・助言する。助言内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	担当分野の活動（1）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
2	担当分野の活動（2）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
3	担当分野の活動（3）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
4	担当分野の活動（4）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
5	担当分野の活動（5）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
6	担当分野の活動（6）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
7	担当分野の活動（7）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
8	担当分野の活動（8）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
9	担当分野の活動（9）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
10	担当分野の活動（10）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
11	担当分野の活動（11）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
12	担当分野の活動（12）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
13	担当分野の活動（13）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
14	卒研発表会のためのリハーサル	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
15	卒業研究発表会での上演	1年間のまとめとして、卒業研究発表会で上演する。〔準備学習〕これまでの本番舞台のパフォーマンスを振り返り、練習する。（予習1時間）。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

「特別支援保育」に関連した研究テーマについて個人の興味関心にそって文献を調べ、テーマが共通するメンバーで構成されるグループでのディスカッションを通して考察を深める。2年次での卒業研究論文執筆に向けて、自らが主体的に課題に向き合い、グループで取り組める研究活動を考え、研究会計画を立てる。フィールドワークのために学外授業を実施することもある。

《授業の到達目標》

①大学での学修の特徴について説明できる。②共同学習の重要性について説明できる。③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。④SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。⑤卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文概要集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	大学での学び・高校までの違い	高校と大学の学びの違い、大学の学びに必要な学習スキルについて、チュートリアルを通して明確にする。＜時間外学習＞1時間 授業の違いを整理する
2	SDGsの目標について	SDGsの「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出。＜時間外学習＞1時間 SDGsに関する記事を調査する
3	SDGsの改善策について	課題や問題点について調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめ、発表する。＜時間外学習＞1時間プロダクトに関する予備情報を調査する
4	SDGsについての発表	地域とのつながりについて考える。＜時間外学習＞1時間 さいたま市発祥の農産物を調べておくこと
5	ゼミの内容理解	指定されたゼミの担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。＜準備学習＞卒業研究発表会のポスター資料を見ておく。
6	ゼミの内容についての全体発表	学年合同：作成したプロダクトについて学年全体で発表する（質疑・応答を含む）。＜準備学習＞ゼミインタビューの結果を整理し発表の準備をする。
7	研究倫理について	学年合同：卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。＜準備学習＞「著作権」について調べ、卒業研究との関連を考える。
8	研究テーマの展望	決定したゼミで、特別支援保育に関連した研究テーマについての展望を学ぶ。＜事前学習＞大学図書館で卒業研究論文抄録のある場所を確認しておく。
9	文献の調べ方について	文献の調べ方について学び、自分の関心のある研究テーマについて調べる。＜準備学習＞「インクルーシブ保育」に関連する書籍や文献を読む。
10	文献のまとめ方について	自分の関心のある研究に関連する文献の要旨をまとめる。＜準備学習＞「コミュニケーション支援」について自分の関心のある文献を読む。
11	量的研究の方法について	アンケートなどの研究から得られた量的データのまとめ方について学ぶ。＜準備学習＞「発達障害」について自分の関心のある論文を読む。
12	質的研究の方法について	インタビューなどの研究から得られた質的データのまとめ方について学ぶ。＜準備学習＞「家族支援」について自分の関心のある論文を読む。
13	グループの構成について	自分の関心のある研究テーマについて、発表し、研究グループを構成する。＜準備学習＞自分の関心のある研究テーマについての発表準備をする
14	グループでの研究計画の作成について	グループの研究テーマを設定し、研究の進め方について話し合い、計画を作成する。＜準備学習＞グループで取り組める研究活動についてのアイデアを考える。
15	研究の進め方について	1、2年合同：2年生の「特別支援保育ゼミ」を見学し、研究の進め方について学ぶ。＜準備学習＞自分の研究テーマに関して収集した情報を整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

前期で作成したグループ研究計画にそって、研究活動をすすめる、個人での研究テーマに沿った研究報告レポートを作成する。2年次の卒業研究論文およびグループでの研究発表に向けて、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。

《授業の到達目標》

①自分の関心のある研究テーマにそって文献を調べ、まとめることができる。②グループでのディスカッションなどを通して、共通するテーマにそった研究活動をすすめることができる。③研究目的、方法などを含めた研究計画書を作成し、調査などを行うことができる。④卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問をおこなうことができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文概要集

《授業時間外学習》

自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身に着ける。調査のために実践現場を見学したり、関係者に聞き取りをしたりするなど、研究を自主的にすすめていく必要があるので、予習・復習あわせて毎回1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	後期の活動内容の確認	ゼミ全体、及び個人・グループの取組について、後期の見通しを持つ。 ＜準備学習＞前期の学修内容を整理し、後期の課題を説明できるようにしておく。
2	グループ研究の情報収集	グループでの研究活動計画にそって必要な情報を収集する。 ＜準備学習＞インクルーシブ保育との関連について考えながら情報収集する。
3	グループ研究の目的について	グループ研究の目的について、パワーポイントにまとめる。 ＜準備学習＞個々の研究テーマとの関連を整理し、パワーポイントにまとめる。
4	グループ研究の方法について	グループ研究の方法について、パワーポイントにまとめる。 ＜準備学習＞研究に必要な物品を準備する。
5	グループ研究の結果の示し方について	グループ研究の結果の示し方について、パワーポイントにまとめる。 ＜準備学習＞これまで研究した内容をパワーポイントにまとめる。
6	グループ研究の結果の考察方法について	結果の考察方法を検討する。研究成果物の公開についての資料を作成する。 ＜準備学習＞グループ内で、個人研究の内容に関する情報を共有しておく。
7	研究成果物の公開について	1、2年合同：「特別支援保育ゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。＜準備学習＞それぞれの学年で展示できる内容をまとめておく。
8	研究成果物の作成 (五峯祭準備1日目)	「特別支援保育ゼミ」の活動内容を五峯祭で展示する成果物を作成する。 ＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	研究成果物の展示 (五峯祭準備2日目)	「特別支援保育ゼミ」の活動内容を五峯祭で展示する成果物を展示する。 ＜準備学習＞どのような役割が必要になるか、分担する人数等を考えておく。
10	研究成果物の公開 (五峯祭当日)	「特別支援保育ゼミ」の活動内容を五峯祭で展示する ＜準備学習＞分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ研究活動の振り返り	五峯祭での研究成果物の公開について振り返りディスカッションする。 ＜準備学習＞インクルーシブ保育の理念を軸に活動の結果を整理しておく。
12	個人研究との関係性について	個人研究およびグループ研究活動についての中間報告としてレポートを書く。 ＜準備学習＞インクルーシブ保育の理念と個人研究との関係を考え整理する。
13	研究報告レポートの作成	1年次の研究報告レポートを作成する。 ＜準備学習＞インクルーシブ保育の理念を念頭に置きながら下書きを仕上げておく。
14	ゼミ内研究発表	1、2年合同：2年生の発表を聞いて、意見や質問をする。 ＜準備学習＞2年生の発表資料を読んでおく。
15	卒業研究発表会	1、2年合同：卒業研究発表会に参加し、興味がある研究について意見をまとめる。 ＜準備学習＞傾聴すべきポイントを自分なりに整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

①大学での学修の特徴について説明できる。②共同学習の重要性について説明できる。③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。④SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。

《成績評価の方法》

実践活動への参加70%、課題30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文概要集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、チュートリアルを通して明確にする。[時間外学習] 授業の違いを整理する。
2	SDG s について (1)	SDGsの「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出。[時間外学習] SDGsに関する記事を調査する。
3	SDG s について (2)	課題や問題点について調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめ、発表する。[時間外学習] プロダクトに関する予備情報を調査する。
4	SDG s について (3)	地域とのつながりについて考える。 [時間外学習] さいたま市で行われているアートプロジェクトについて調査する。
5	ゼミの内容理解 (1)	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。[時間外学習] 質問事項をまとめる。
6	ゼミの内容理解 (2)	前次に作成したプロダクトについて発表する(質疑・応答を含む)。 [時間外学習] 各グループの発表内容についてまとめる。
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。 [時間外学習] HP等で研究倫理に関する記事を調査する。
8	研究テーマの設定	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。＜事前学習＞図書館で、卒業研究論文抄録のある書架の場所を確認しておく。
9	個人研究課題の検討①	過去の論文抄録について調査し、「造形表現ゼミ」の研究課題について知る。＜準備学習＞「子どもの造形表現」という研究領域に含まれる事柄について調べる。
10	個人研究課題の検討②	SDG s の目標との関係に留意し、取り組んでみたい研究課題を複数検討する。＜準備学習＞SDG s についての学びの内容を、特に17種類の目標中心に振り返っておく。
11	研究グループの検討	個人研究課題を元に、相互の関連を考察し、研究グループを構成し、グループ研究課題を検討する。＜準備学習＞同じゼミ内の個人研究テーマを互いに情報共有しておく。
12	研究グループの設定	グループ研究課題に基づき、研究グループを設定して進め方について話し合う。＜準備学習＞「子どもの造形表現」の研究領域、SDGsの17の目標について振り返っておく。
13	個人研究課題の検討①	文献・資料の検索①＜準備学習＞「CiNii」について、その内容や活用の仕方について調べておく。
14	個人研究課題の検討②	文献・資料の検索②＜準備学習＞自分の研究テーマに関する情報をできるだけ多く収集する。
15	調査・研究③	2年生の「造形表現ゼミ」の取組を見学し、研究資料収集のヒントを掴む。＜準備学習＞自分の研究テーマに関して収集した情報を整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

①大学での学修の特徴について説明できる。②共同学習の重要性について説明できる。③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。④SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。⑤卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

実践活動への参加70%、課題30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版]」2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文概要集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	後期の活動内容の確認	ゼミ全体、及び個人・グループの取組について、後期の見通しを持つ。＜準備学習＞前期の学修内容を整理し、後期の課題を説明できるようにしておく。
2	調査・研究④	これまでに収集した資料を整理し、個人論文作成の準備をする。＜準備学習＞実際の卒業研究の個人論文について、項目や内容を調べておく。
3	個人論文の作成①	個人論文の基本的な書式や項目を知り、各項目について下書きをする。＜準備学習＞自分の研究テーマについて、収集した地応報を整理しておく。
4	個人論文の作成②	次の「ゼミ I 中間発表」に向けて個人論文を仕上げる。＜準備学習＞個人論文の仕上げに向けて、下書きを完成させておく。
5	中間発表	個人研究課題について、調査結果を発表し合う。＜準備学習＞これまで研究した内容をA4サイズの用紙1枚にまとめ、発表の準備をしておく。
6	グループ論文の検討	グループごとに個人研究を踏まえたグループ論文の構成や内容について検討する。＜準備学習＞グループ内で、個人研究の内容に関する情報を共有しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	全体構成、執筆分担について話し合う。＜準備学習＞五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
8	五峯祭準備①	「造形表現ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備①＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備②	「造形表現ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備②＜準備学習＞どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	「造形表現ゼミ」としての五峯祭当日の取組＜準備学習＞五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ論文の作成①	全体構成、執筆分担について話し合う。＜準備学習＞五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	グループ論文の作成②	個人研究との関係に留意しながら、分担ごとに下書きを進める。＜準備学習＞個人研究との関係を考えながら、分担部分のポイントを整理しておく。
13	グループ論文の作成③	グループ論文を仕上げ、発表資料を作成する。＜準備学習＞分担部分の下書きを仕上げておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。(ゼミⅡ・ゼミⅠ合同)＜準備学習＞各グループ、研究内容をA4サイズの用紙1枚にまとめて八びょうの準備をする。
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会の参加、興味がある研究領域について研究内容を理解する。＜準備学習＞傾聴すべきポイントを自分なりに整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

①大学での学修の特徴について説明できる。②共同学習の重要性について説明できる。③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。④SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。⑤卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[5訂版]」2021年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文概要集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が求められるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につけること。また、毎回の授業の振り返りや次の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究の進め方について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、チュートリアルを通して明確にする。〔授業時間外学習〕授業の違いを整理する（復習 1 時間）
2	SDG s について①	SDGsの「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出。〔授業時間外学習〕SDGsに関する記事を調査する（予習・復習 1 時間）
3	SDG s について②	課題や問題点について調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめ、発表する。〔授業時間外学習〕プロダクトに関する予備情報を調査する（予習 1 時間）
4	SDG s について③	地域とのつながりについて考える。〔授業時間外学習〕さいたま市発祥の農産物を調べておくこと（復習 1 時間）
5	ゼミの内容理解①	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。〔授業時間外学習〕調査する研究領域や質問事項をまとめる（予習 1 時間）
6	ゼミの内容理解②	前次に作成したプロダクトについて発表する（質疑・応答を含む）。〔授業時間外学習〕各グループの発表内容についてまとめる（復習 1 時間）
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。〔授業時間外学習〕HP等で研究倫理に関する記事を調査する（予習・復習 1 時間）
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。＜事前学習＞大学図書館で、卒業研究論文抄録のある書架の場所を確認しておく。
9	個人研究課題の検討①	過去の論文抄録について調査し、本ゼミの研究課題について知る。＜準備学習＞本ゼミの研究領域に含まれる事柄について調べる。
10	個人研究課題の検討②	SDGsの目標との関係に留意し、取り組んでみたい研究課題を複数検討する。＜準備学習＞SDGsについての学びの内容を、特に17種類の目標を中心に振り返っておく。
11	研究グループの検討	各々の研究課題の関連を考察し、研究グループを構成し、グループとしての研究課題を検討する。＜準備学習＞同じゼミ内の個人研究テーマを互いに情報共有しておく。
12	研究グループの設定	グループの研究課題に基づき、研究グループを設定して研究の進め方について話し合う。＜準備学習＞本ゼミの研究領域、SDGsの17の目標について振り返っておく。
13	調査・研究①	文献・資料の検索①＜準備学習＞「CiNii」について、その内容や活用の仕方について調べておく。
14	調査・研究②	文献・資料の検索②＜準備学習＞自分の研究テーマに関する情報をできるだけ多く収集する。
15	調査・研究③	2年生の取組を見学し、研究資料収集のヒントを掴む。＜準備学習＞自分の研究テーマに関して収集した情報を整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

①大学での学修の特徴について説明できる。②共同学習の重要性について説明できる。③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。④SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。⑤卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[5訂版]」2021年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文概要集

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が求められるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につけること。また、毎回の授業の振り返りや次の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究の進め方について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	後期の活動内容の確認	ゼミ全体、及び個人・グループの取組について、後期の見通しを持つ。＜準備学習＞前期の学修内容を整理し、後期の課題を説明できるようにしておく。
2	調査・研究④	これまでに収集した資料を整理し、個人論文作成の準備をする。＜準備学習＞実際の卒業研究の個人論文について、項目や内容を調べておく。
3	調査・研究⑤	前回に続き、これまでに収集した資料を整理し、個人論文作成の準備をする。＜準備学習＞実際の卒業研究の個人論文について、項目や内容を調べておく。
4	中間発表①	個人研究課題について、調査結果を発表し合う。＜準備学習＞発表資料を作成し、発表の準備をしておく。
5	個人論文の作成①	個人論文の基本的な書式や項目を知り、各項目について下書きをする。＜準備学習＞自分の研究テーマについて、収集した情報を整理しておく。
6	個人論文の作成②	前回の内容を踏まえ、下書きを進める。＜準備学習＞自分の研究テーマについて、収集した情報を整理しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	本ゼミとしての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。（2年生ゼミと合同）＜準備学習＞昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備①	五峯祭の取組に向けた準備①＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備②	五峯祭の取組に向けた準備②＜準備学習＞どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	五峯祭当日の取組＜準備学習＞五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	個人論文の作成③	これまで調べたことをもとに、個人論文を執筆する。＜準備学習＞自分の研究テーマについて、収集した情報を整理しておく。
12	個人論文の作成④	次の「ゼミ内研究発表（1年生）」に向けて発表資料を作成する。＜準備学習＞個人論文の仕上げに向けて、下書きを完成させておく。
13	中間発表②	各自、現時点での個人論文を発表する。＜準備学習＞発表資料を完成させておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う（2年生ゼミと合同）。＜準備学習＞グループごとに発表用資料を作成し、発表の準備をする。
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会の参加、興味がある研究領域について研究内容を理解する。＜準備学習＞傾聴すべきポイントを自分なりに整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	小笠原 忍				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態を取り入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

授業中適宜指示する。

《授業の到達目標》

- ①大学での学修の特徴について説明できる。
- ②共同学習の重要性について説明できる。
- ③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。
- ④SDGsの内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。
- ⑤卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《授業時間外学習》

授業で出された課題や自分の関心のあるテーマについての予備知識の学習など、自らの研究テーマを確立するための学習を自主的かつ積極的におこなうこと。これらの予習・復習を合わせて15時間の時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、明確にする。 ＜準備学習＞大学の授業のイメージを発表できるようにする。
2	SDGsについて①	SDGsの「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出する。＜準備学習＞SDGsについて自分なりに調べておく。
3	SDGsについて②	上記の課題や問題点について現状を調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめる。＜準備学習＞SDGsの取組の背景について説明できるようにする。
4	SDGsについて③	前次に作成したプロダクトについて発表する（質疑・応答を含む）。＜準備学習＞大学ホームページで本学のSDGsの取組を知る。
5	ゼミの内容理解①	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。＜準備学習＞卒業研究発表会のポスター資料を見ておく。
6	ゼミの内容理解②	前次に作成したプロダクトについて発表する（質疑・応答を含む）。＜準備学習＞ゼミインタビューの結果を整理し発表の準備をする。
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。＜準備学習＞「著作権」について調べ、卒業研究との関連を考える。
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。＜事前学習＞大学図書館で、卒業研究論文抄録のある書架の場所を確認しておく。
9	心理学（事例研究）の研究 方法①	心理学、特に事例研究がどのように研究されているのか、その方法を理解する。（時間外）[予習]配布プリントを読む[復習]改めて配布プリントの内容を確認する
10	心理学（事例研究）の研究 方法②	事例研究の理論と方法の基礎について理解する。（時間外）[予習]配布プリントを読む[復習]配布された課題に取り組む
11	心理学（事例研究）の研究 方法③	事例研究のデータの集計方法などを理解する。（時間外）[予習]配布プリントを読む[復習]配布された課題に取り組む
12	研究テーマの検索①	自らが関心のあるテーマから、研究テーマを抽出する。（時間外）[予習]テキストや抄録を読む[復習]配布された課題に取り組む
13	研究テーマの検索②	抽出したテーマから、実際に卒業研究として取り組むテーマを絞り込む（時間外）[予習]配布プリントを作成する[復習]配布プリントを完成させる
14	文献検索法①	CiNiiを使った文献検索の方法を身につける。（時間外）[予習]配布プリントを読む[復習]実際に文献を検索しプリントアウトする
15	文献検索法②	論文の参考文献リストからの文献検索法を理解する。（時間外）[予習]前回検索した文献の参考文献リストを確認する[復習]参考文献リストとCiNiiを使って文献を検索する

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	小笠原 忍				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態を取り入れ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

授業中適宜指示する。

《授業の到達目標》

- ①大学での学修の特徴について説明できる。
- ②共同学習の重要性について説明できる。
- ③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。
- ④SDGsの内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。
- ⑤卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《授業時間外学習》

授業で出された課題や自分の関心のあるテーマについての予備知識の学習など、自らの研究テーマを確立するための学習を自主的かつ積極的におこなうこと。これらの予習・復習を合わせて15時間の時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	論文展望	検索した論文をまとめ、その内容を発表する。(時間外)[予習]発表準備[復習]質問された内容の確認
2	研究テーマの決定	これまで検索した文献等から、卒業研究のテーマを決定する。(時間外)[予習]これまでの文献を再確認する[復習]研究テーマに関係する論文を読む
3	先行研究の検索①	決定した研究テーマに関係する文献を検索し、読んでまとめる。(時間外)[予習]文献検索法を復習する[復習]検索した文献をまとめて「問題」「目的」を執筆する
4	先行研究の検索②	さらに文献を検索し、先行研究を収集する。(時間外)[予習]検索した文献の参考文献リストを確認する[復習]検索した文献をまとめて「問題」「目的」を執筆する
5	データ収集の準備①	検索した先行研究から、データ収集の方法を決定する。(時間外)[予習]検索した文献からデータ収集の方法を抽出する[復習]先行研究からデータ収集方法を確認する
6	データ収集の準備②	実際にデータ収集ができるように準備する。(時間外)[予習]先行研究を確認する[復習]データ収集の準備を確認する
7	五峯祭の取組内容の検討	五峯祭の取組(幼児絵画展表彰式)について、内容や役割分担を検討する。(1・2年生合同)＜準備学習＞昨年の幼児絵画展の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備①	幼児絵画展表彰式運営の準備①：役割の内容や分担について確認する。＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備②	幼児絵画展表彰式運営の準備②：役割、分担ごとに動きを確認し練習をする。＜準備学習＞表彰式の流れを確認し、役割ごとに練習をしておく。
10	五峯祭当日の取組	第40回幼児絵画展表彰式の運営。＜準備学習＞五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに、案内・誘導・司会などの練習をしておく。
11	データの収集	データの収集を行う。(時間外)[予習]先行研究を確認する[復習]データ収集の方法に対する反省を行う
12	データのとりまとめ①	収集したデータを分析ができるように加工する。(時間外)[予習]Excelの使い方を復習する[復習]データの加工方法を確認する
13	データのとりまとめ②	収集したデータを分析ができるように加工する。(時間外)[予習]Excelの使い方を復習する[復習]データの加工方法を確認する
14	個人研究レポート発表会	個人研究の成果を発表し、2年生からアドバイスを受ける。＜準備学習＞決められた時間を十分に使って発表できるよう練習をしておく。
15	卒業研究発表会参加	2年生の発表会に参加し、来年の研究に向けた情報を収集するための準備をする。(1・2年生合同)＜準備学習＞発表会当日の流れ、会場の状況などについて確認する。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	石部 忠之				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

①大学での学修の特徴について説明できる。②共同学習の重要性について説明できる。③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。④SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。⑤卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

本学の「卒業研究概要集」
本学の「研究紀要」ほか、授業中に指示する。

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	後期の活動内容の確認	ゼミ全体、及び個人・グループの取組について、後期の見通しを持つ。＜準備学習＞前期の学修内容を整理し、後期の課題を説明できるようにしておく。
2	調査・研究④	作成している発表用スライドを完成させる。＜準備学習＞前回に作成したスライドを確認して内容を把握しておく。
3	個人レポートの作成①	個人レポートの基本的な書式や項目を知り、各項目について下書きをする。＜準備学習＞自分の研究テーマについて、収集した情報を整理しておく。
4	個人レポートの作成②	次の「プレゼミ内中間発表」に向けて個人レポートを仕上げる。＜準備学習＞個人レポートの仕上げに向けて、下書きを完成させておく。
5	中間発表①	個人研究課題について、調査結果をスライド発表する。＜準備学習＞これまで研究した内容をPowerPointスライドにまとめ、発表の準備をしておく。
6	中間発表②	個人研究課題について、調査結果をスライド発表する。＜準備学習＞これまで研究した内容をPowerPointスライドにまとめ、発表の準備をしておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。（ゼミⅡ・ゼミⅠ合同）＜準備学習＞昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備①	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備①＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備②	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備②＜準備学習＞どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭当日の取組＜準備学習＞五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ研究の作成①	全体構成、執筆分担について話し合う。＜準備学習＞五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	グループ研究の作成②	個人研究との関係に留意しながら、分担ごとに下書きを進める。＜準備学習＞個人研究との関係を考えながら、分担部分のポイントを整理しておく。
13	グループ研究の作成③	グループ研究を仕上げ、発表用スライドを作成する。＜準備学習＞分担部分の下書きを仕上げておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。（ゼミⅡ・ゼミⅠ合同）＜準備学習＞各グループ、研究内容をPowerPointスライドまとめて発表の準備をする。
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会の参加、興味がある研究領域について研究内容を理解する。＜準備学習＞傾聴すべきポイントを自分なりに整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ I				
担当者氏名	石部 忠之				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、ゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》

①大学での学修の特徴について説明できる。②共同学習の重要性について説明できる。③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。④SDGsの目標の内容と、その達成に向けた取組の意義を説明できる。⑤卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

本学の「卒業研究概要集」
本学の「研究紀要」ほか、授業中に指示する。

《授業時間外学習》

授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次の学習内容の準備に取り組む必要があるため、予習・復習あわせて1時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	大学での学び 高校までとの違い	高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、チュートリアルを通して明確にする。〔授業時間外学習〕授業の違いを整理する（復習 1 時間）
2	SDGsについて(1)	SDGsの「17の目標」について理解し、研究分野に関する世界各国、地球規模での問題や課題を抽出。〔授業時間外学習〕SDGsに関する記事を調査する（予習・復習 1 時間）
3	SDGsについて(2)	課題や問題点について調査し、改善策を考える。調査内容や改善策をまとめ、発表する。〔授業時間外学習〕プロダクトに関する予備情報を調査する（予習 1 時間）
4	SDGsについて(3)	地域とのつながりについて考える。〔授業時間外学習〕さいたま市発祥の農産物を調べておくこと（復習 1 時間）
5	ゼミの内容理解(1)	本学のゼミナールの内容について、ゼミ担当者にインタビューを行い、プロダクトを作成する。〔授業時間外学習〕調査する研究領域や質問事項をまとめる（予習 1 時間）
6	ゼミの内容理解(2)	前次に作成したプロダクトについて発表する（質疑・応答を含む）。〔授業時間外学習〕各グループの発表内容についてまとめる（復習 1 時間）
7	研究倫理について	卒業研究作成における研究倫理の重要性に学ぶ。〔授業時間外学習〕HP等で研究倫理に関する記事を調査する（予習・復習 1 時間）
8	研究テーマの展望	自ら選択した研究領域について、過去の卒業論文を調査し、研究テーマの概要を理解する。＜事前学習＞卒業研究論文抄録のある書架の場所を確認しておく。（復習 1 時間）
9	個人研究課題の検討①	過去の論文抄録について調査し、ゼミの研究課題について知る。＜準備学習＞「情報リテラシー」という学問の研究領域に含まれる事柄について調べる。（予習・復習 1 時間）
10	個人研究課題の検討②	SDGsの目標との関係に留意し、取り組んでみたい研究課題を複数検討する。＜準備学習＞SDGsについての学びを、特に17種類の目標中心に振り返っておく。（復習1時間）
11	研究グループの検討	個人研究課題を元に、相互の関連を考察し、研究グループを構成し、グループ研究課題を検討する。＜準備学習＞同じゼミ内の個人研究テーマを互いに情報共有しておく。
12	研究グループの設定	グループ研究課題に基づき、研究グループを設定して研究の進め方について話し合う。＜準備学習＞「情報リテラシー」、SDGsの17の目標について振り返っておく。
13	調査・研究①	文献・資料の検索①＜準備学習＞「CiNii」について、その内容や活用の仕方について調べておく。（予習・復習 1 時間）
14	調査・研究②	文献・資料の検索②＜準備学習＞自分の研究テーマに関する情報をできるだけ多く収集する。（復習 1 時間）
15	調査・研究③	前次で収集した情報に基づいて発表のできるスライドを作成する。＜準備学習＞自分の研究テーマに関して収集した情報を整理しておく。（予習・復習 1 時間）

科目名	保育者・教職原論				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

保育所・施設・幼稚園・こども園など多様な職場で活躍する保育者の実態を理解し、幼児教育・保育の担い手としての保育者について、職務の特性や内容、課せられた義務や果たすべき責任について学ぶ。資料収集やグループワーク、発表などの学修を通して、幼児教育・保育のねらいを達成することのできる、高い専門性を身に付けた保育者としてのキャリア形成について自ら考える力を培う。

《授業の到達目標》

- ①保育者の存在意義、職業の特徴、求められる役割、基礎的な資質能力など職務の全体像を理解し、説明することができる。
- ②研修の意義、制度上の位置づけ、生涯にわたって学び続ける必要性について、説明することができる。
- ③職務上・身分上の義務、身分保障等を理解し、組織の一員として職務を遂行することの重要性について、自分の考えを持ち、自分の言葉で表現することができる。

《成績評価の方法》

授業中の小レポート及び新聞記事感想レポートを40%、最終レポートを60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

「保育者論―主体性のある保育者を目指して―」[第2版]
2024年萌文書林

《参考図書》

「保育用語辞典第8版」平成27年4月、ミネルヴァ書房
「保育者 新・基本保育シリーズ⑦」2019年中央法規出版
「子どもとともに未来をデザインする 保育者論・教育者論」
2020年わかば社

《授業時間外学習》

次の授業回で扱うテーマについて、教科書の該当ページを精読したうえで、文献・インターネット等を用いて自己学習する。毎回、授業の初めに読む新聞記事について、考えたことを自宅学修としてレポートする。教員からのフィードバックを基に、学修内容を振り返り、小レポートを修正して、最終レポートに備える、本授業では60時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

毎回授業で実施する小レポートは、コメントを付してフィードバックし、次の授業で解説する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	保育者とは何か	他の職業と比較した保育者の特性、保育者の役割について考える。 [時間外学習] テキスト全体を概観し、テキスト第1章を読んでおくこと。
2	幼稚園や保育園で働く保育者	幼稚園教諭と保育士の共通点や違いについて理解する。 [時間外学習] 前回の学修を振り返り、テキスト第2, 3章を読んでおくこと。
3	こども園や施設で働く保育者	こども園で働く保育教諭、施設で働く保育士の仕事内容について理解する。 [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第4章を読んでおくこと。
4	保育者に求められる倫理	保育指針や関係法令等に表示された保育者の倫理、子どもの最善の利益について理解する。 [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第5章を読んでおくこと。
5	保育者の法的位置づけ	保育者の法的位置づけ、信用失墜行為、守秘義務について理解する。(グループワーク) [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第6章を読んでおくこと。
6	保育者の専門性(1) 保育者の心構え	保育者の心構え、子ども理解の重要性やその方法について理解する。(グループワーク) [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第7章を読んでおくこと。
7	保育者の専門性(2) 養護・教育の一体的展開	養護・教育それぞれの意味、その一体的展開について理解する。(グループワーク) [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第8章を読んでおくこと。
8	保育者の専門性(3) 保育の質の向上	保育の質について考え、保育の質を向上させるための方法を理解する。 [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第9章をよんでおくこと。
9	保育者の専門性(4) 保育実践と省察・評価	保育におけるPDCAサイクルの意味、その具体的方法について理解する。 [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第10章を読んでおくこと。
10	海外の保育に学ぶ	関心を持った国の保育の状況について調べ、日本の保育との違いやその背景について考える。 [時間外学習] 「海外の保育」で検索し、サイト内容を閲覧しておくこと。
11	保育者の連携・協働(1) 園内の保育者チーム	園内の様々な職種に注目し、それぞれがチームの一員であることを理解する。(グループワーク) [時間外学習] テキスト第11章の1を読んでおくこと。
12	保育者の連携・協働(2) 家庭との連携	家庭との連携、子育て支援について知り、よりよい保育のあり方について理解する。 [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第11章の2を読んでおくこと。
13	保育者の連携・協働(3) 専門機関や地域との連携	保育を支える行政の役割、自治体や専門機関との連携、保幼小の連携について理解する。 [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第12章を読んでおくこと。
14	保育の現代的な課題	保育職の特徴やメンタルヘルスの維持、就労継続の問題について理解する。 [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第14章を読んでおくこと。
15	理想の保育者を目指して	保育者に求められる様々な指標をもとに今の自分の姿を見つめ、保育職に向けて必要となる事柄を分析する。 [時間外学習] テキスト第15章を読んでおくこと。

《専門科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ 1-1 教養 ☒ 2-2 知識・技能 ☐ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

幼稚園教諭及び保育士に必要な教育の基礎理論として、教育の歴史・思想や、教育に関する法律・制度について修得し、教育の本質や理念について学ぶ。また、それらを基盤として、よりよい教育・保育の実現に積極的に取り組むための態度と志向を養う。

なお、この授業ではペアワークやグループディスカッション等を行う。

《授業の到達目標》

- ①保育者として必要な教育の基礎理論を修得し、その理論について説明できる。
- ②教育の歴史・思想や、教育に関する社会的な基本事項を理解し、説明することができる。
- ③幼稚園及び保育施設における教育実践の様々な取り組みや課題について理解し、その解決方法を考え、説明することができる。

《成績評価の方法》

授業への積極的な取り組み・課題等の提出物 50%

定期試験 50%

総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

プリントを配付する。

《参考図書》

木村元・汐見稔幸（2020）『アクティベート教育学1 教育原理』ミネルヴァ書房

福元真由美（2017）『はじめての子ども教育原理』有斐閣ストゥディア

今井康雄編（2009）『教育思想史』有斐閣アルマ

《授業時間外学習》

事前学習として、事前に配付した資料を読んでおくこと。

事後学習として、授業内容を振り返りノートにまとめておくこと。

本授業では60時間の時間外学修を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

課題については授業内で返却し、解説を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	教育原理を学ぶとは	教育の目的と意義——ヒトは教育によって人間になる 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
2	「教える」と「学ぶ」こと	学問のはじまり——古代ギリシャ 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
3	「教える」ことはどのように考えられてきたか	人間形成の場としての家庭・地域・社会——中世ヨーロッパ 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
4	「子ども」とはどのような存在か？	「子ども」の誕生と「教育」のはじまり——近代の幕開け 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
5	「遊び」にはどのような意味があるのか？	幼児教育のはじまり——ペスタロッチとフレーベル 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
6	公教育にはどのような意味があるのか	近代公教育のはじまり——ヘルバルトの教育学 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
7	どうすれば子どもはよく「学ぶ」のか？	欧米における新教育運動 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
8	教育における「平等」とは？	江戸から明治へ——日本における近代公教育のはじまり 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
9	子どものための「教育」とは？	大正新教育 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
10	国家と教育の関係はどうあるべきか？～戦前編～	戦時下の教育 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
11	国家と教育の関係はどうあるべきか？～戦後編～	戦後日本における教育のあゆみ 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
12	学校が果たすべき役割とは？	高度経済成長と教育 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
13	現代の教育的課題① インクルーシブ教育	インクルーシブ教育の取り組み 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
14	現代の教育的課題② オルタナティブ教育	オルタナティブ教育の取り組み 事前学習：事前に配付した資料を読んでおくこと
15	全体のまとめと振り返り	全体のまとめと振り返り 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、要点をまとめておく

《専門科目》

科目名	保育原理				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

この授業では、保育の意義や目的、保育に関する法制度、保育所保育指針における保育の基本的な考え方などについて学ぶ。また、保育の歴史と思想、現代における課題についての基礎的な理解を得る。

本授業では、各回のテーマや映像資料に基づくグループディスカッション等を行う。

《授業の到達目標》

- ①保育の意義や目的、保育に関する法制度について理解し、説明することができる。
- ②保育所保育指針における保育の基本的な考え方について理解し、説明することができる。
- ③保育の歴史や思想を踏まえながら、保育の現状と課題について自身の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》

授業への積極的な取り組み・課題等の提出物 50%

定期試験 50%

総合評価60点以上で合格とする。

《テキスト》

柏女霊峰監修・全国保育士会編集（2009）『全国保育士会倫理綱領ガイドブック 改訂2版』全国社会福祉協議会

《参考図書》

吉見昌弘・斎藤 裕編（2021）『はじめて学ぶ保育原理[新版]』北大路書房
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館

《授業時間外学習》

事前学習として事前学習に配付した資料を読んでおくこと。
本授業では60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

課題については授業内で返却し、解説を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	「保育」とは何か	保育とは何かについて考える 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
2	保育の目的と理念	保育の目的と理念について 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
3	『保育所保育指針』① 養護と教育の一体性	養護と教育の一体性とは何か 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
4	『保育所保育指針』② 保育の内容と5領域	保育の内容と5領域について 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
5	0・1・2歳の子どもの発達と保育	0・1・2歳の子どもの発達と保育について 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
6	3・4・5歳の子どもの発達と保育	3・4・5歳の子どもの発達と保育について 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
7	保育における「遊び」	保育における「遊び」の意味について考える 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
8	保育の方法と形態	保育の方法と形態について考える 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
9	西洋における保育の歴史	西洋における保育の歴史と思想を学ぶ 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
10	日本における保育の歴史	日本における保育の歴史と思想を学ぶ 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
11	保育に関する法制度	保育に関する法制度を理解する 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
12	幼保一元化と子育て支援政策	幼保一元化と子育て支援政策について 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
13	保育の現状と課題① インクルーシブ保育	インクルーシブ保育について 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
14	保育の現状と課題② オルタナティブ保育	オルタナティブ保育について 事前学習：事前学習に配付した資料を読んでおく
15	全体のまとめと振り返り	全体のまとめと振り返り 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、要点をまとめておく

《専門科目》

科目名	社会福祉概論				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

待機児童・虐待・貧困等、子育てに関する様々な問題解決が社会全体で求められている。保育士を目指す者は、その専門性をより一層高めるために、社会福祉について深く理解する必要がある。保育に関連する社会福祉および子ども家庭支援に関する事項について様々な視点から学び、グループディスカッションなどを通して実践をふまえた理解を深め、保育士としての土台を修得する。

《授業の到達目標》

- ①社会福祉の歴史の変遷・動向を踏まえて、社会福祉におけるこども家庭支援の視点について述べることができる。
- ②社会福祉の制度・実施体系等について説明できる。
- ③社会福祉における相談援助について述べることができる。
- ④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて説明できる。
- ⑤社会福祉の動向と課題について述べることができる。

《成績評価の方法》

授業の到達目標に基づき、授業内の取り組み・発言等20%、課題等提出物20%、定期試験60%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

新基本保育シリーズ 4
松原康雄他編集「社会福祉」中央法規

《参考図書》

- ①福祉教育カレッジ「イラストでみる社会福祉用語事典（第2版）」（テコム 2017）
- ②「子どもによる子どものための子どもの権利条約」小口尚子・福岡鮎美著（小学館）

《授業時間外学習》

- ①社会福祉に関わるニュースや身近な事象を常に意識しておくこと。
- ②各授業に参加するにあたって事前に提示された課題を学習しておくこと。
- ③授業後はワークシートで課題の見直しをすること。
本授業では60時間の時間外学習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業で提出されたミニテストに対して授業でコメントを付すことでフィードバックを行います。疑問点や質問は授業内、授業後に受け付けます。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	社会福祉の理念と歴史の変遷	社会福祉とは何か、理念と実践とは、人々の命や生活に果たす役割の理解 予習：教科書p2-12 復習：教科書該当箇所・ワークシート
2	子ども家庭支援と社会福祉	家庭支援の重要性と子ども家庭支援の具体的役割の理解 予習：教科書p14-24 復習：教科書該当箇所・ワークシート
3	社会福祉の制度と法体系	社会福祉の法体系、制度法律の位置づけと役割の理解及び具体的支援を学ぶ 予習：教科書p26-36 復習：教科書該当箇所・ワークシート
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設	制度の整備、相談機関の役割、社会福祉財政、社会福祉施設の理解 予習：教科書p38-52 復習：教科書該当箇所・ワークシート
5	社会福祉の専門職	社会福祉分野（対人援助）における専門職及び児童福祉施設の専門職について理解 予習：教科書p54-64 復習：教科書該当箇所・ワークシート
6	社会保障および関連制度の概要	社会保障制度の対象、役割、具体的対応の理解 予習：教科書p66-76 復習：教科書該当箇所・ワークシート
7	相談援助の理論	相談援助の成り立ち、発展の概略及び現場実践での留意点を学ぶ 予習：教科書p78-88 復習：教科書該当箇所・ワークシート
8	相談援助の意義と機能	専門職として相談援助を行う意義や態度、あり方、価値・倫理、原則の理解 予習：教科書p90-100 復習：教科書該当箇所・ワークシート
9	相談援助の対象と過程	相談援助の対象、過程、援助者の態度や視点の理解 予習：教科書p102-112 復習：教科書該当箇所・ワークシート
10	相談援助の方法と技術	相談援助技術の特性及び環境や社会資源との関連、関係機関との連携や課題の理解 予習：教科書p114-126 復習：教科書該当箇所・ワークシート
11	利用者の保護にかかわるしくみ	利用者保護制度の背景や法的根拠、しくみ、今後の課題について学ぶ 予習：教科書p128-138 復習：教科書該当箇所・ワークシート
12	少子高齢化社会における子育て支援	少子化の現状及び対策の展開、保育所の役割についての理解 予習：教科書p140-150 復習：教科書該当箇所・ワークシート
13	共生社会の実現と障害者施策	障害のとらえ方及び現状、障害者福祉施策の展開過程、保育所の役割を学ぶ 予習：教科書p152-162 復習：教科書該当箇所・ワークシート
14	在宅福祉・地域福祉の推進	地域福祉の考え方や実践方法、地域住民、隣接領域の専門職とのかかわり方を学ぶ 予習：教科書p164-174 復習：教科書該当箇所・ワークシート
15	諸外国の社会福祉の動向とまとめ	福祉国家とは何か、先進諸国の現状及び歴史的な経緯について理解する 予習：教科書p176-186 復習：教科書該当箇所・ワークシート

《専門科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	小笠原 忍				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

講義および集団討論を通して、①発達に関する代表的な理論を踏まえて、発達概念及び教育における発達理解の意義を理解する。②乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達について学ぶ。③学習に関する代表的な理論の基礎を理解する。④主体的学習を支える動機づけや集団作りなどのあり方について、発達の特徴と関連付けて理解する。⑤発達を踏まえた学習活動を支える指導の基礎的知識を学ぶ。

《授業の到達目標》

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を説明できる。

《成績評価の方法》

毎時間提出するリアクションペーパー(20%)＋定期試験(80%)で評価をおこない、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じてプリントを使用する。

《参考図書》

①谷口明子・廣瀬英子 2017 育ちを支える教育心理学 学文社
 ②石井正子・松尾直博 2004 教育心理学―保育者をめざす人へ 樹村房
 ③服部環 2012 「使える」教育心理学＜増補改訂版＞ 北樹出版
 ④松本峰雄(監修) 2021 保育の心理学 演習ブック [第2版] ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

予習として、次回授業内容に該当するテーマを精読し、自らの興味関心および疑問点などを挙げる「予習ノート」を作成し、授業に臨むこと(2時間)。また、復習として「予習ノート」と「授業ノート」を照らし合わせて復習し、ノートの整理をすること(2時間)。本授業では予習・復習を合わせて合計60時間の授業時間外学習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

リアクションペーパーの記載内容については次週の授業で振り返りを行ないます。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達を理解することの意義	発達を理解することの意義と方法、個人差と子どものコミュニケーション支援について理解する。(グループワーク)＜授業外＞配布資料を精読し予習(2時間)復習(2時間)
2	子どもの発達と環境	発達の規定因について学び、子どもが育つ環境の影響について理解を深める。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
3	発達に関する理論	代表的な発達理論を学び、発達の考え方について理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
4	子ども観と保育観(含グループワーク)	子ども観と保育観に関する代表的な考え方を学び、保育の課題について理解を深める。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
5	社会情動の発達	感情や社会性の発達について学び、親子関係および仲間関係の変化を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
6	身体的機能と運動機能の発達	身体・運動機能の発達の原理と特徴を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
7	認知の発達(グループワーク)	認知発達理論をベースに、感覚・知覚の発達を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
8	言語の発達とコミュニケーション(グループ)	言語発達の段階と乳幼児のコミュニケーションについて理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
9	知能とパーソナリティ(グループワーク)	知能の構造と個人差について学ぶとともに、検査の方法について理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
10	発達に偏りのある子どもの理解と支援	主な発達障害について学び、特別支援教育やインクルーシブ保育について理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
11	乳幼児期の学びに関わる理論1 オペラント	学習理論を学び、行動を身に付ける過程を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
12	乳幼児期の学びに関わる理論2 レスポンデント	学習理論を学び、行動を身に付ける過程を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
13	乳幼児期の学びに関わる理論3 動機づけ	2つの動機づけについて学び、自己効力感を育む保育のあり方について考える。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
14	乳幼児期の学びの過程と特性(グループワーク)	日常場面における学びを支える人間関係や愛着の重要性を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
15	乳幼児期の学びを支える保育(グループワーク)	子どもの学びを促進する環境・保育のあり方について考える。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。

科目名	子どもの保健				
担当者氏名	佐藤 紀子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

「子どもの保健」は、子どもの心身の健康を守ると同時に、子どもの健康を保持・増進させるために行うすべての活動を指している。その活動を行うためには、子どもを取り巻く社会、環境を学習すると共に、成長・発達に関する知識、子ども特有の病気の理解、予防の方法等、事故予防など多岐にわたる知識を必要とする。家族との連携を重視し子どもが健やかに成長するための支援について基礎的な知識を学習する。

《授業の到達目標》

- (1)子どもを取り巻く社会の現状や歴史を学び、子どもの保健の重要性を説明できる。
- (2)子どもの成長・発達を学び、社会の中での子どもの大切さを説明できる。
- (3)子ども特有の病気について説明できる。
- (4)子どもの事故を理解し予防行動を説明できる。
- (5)地域の子育て支援について説明できる。

《成績評価の方法》

- ・定期（筆記）試験60％
- ・課題レポート・提出物、グループワーク40％
- ※授業態度、グループワークの取り組みを加味する。
- 総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

小林玄「子どもの保健と安全演習ブック」ミネルヴァ書房

《参考図書》

- ①丸尾良浩他「子どもの健康と安全」ミネルヴァ書房2020
- ②古荘純一「子どもの精神保健テキスト」第2班 診断と治療社2019

《授業時間外学習》

- ・次回の講義の予習として、該当箇所の教科書を読み、予習すること。毎回の授業について、予習、復習（概ね4時間）の自己学習が必要である。
- ・シラバスの課題等に沿って学習すること
- ・子どもの健康について関心をもち、幅広い知識を身につけておくこと。

《課題に対するフィードバック等》

- ・講義のレポート、提出を求めた課題については、次回以降コメント等を付してフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	「子どもの保健」概要	・「保健」とは ・保健統計（人口動態） ・先人に学ぶ乳児死亡 【準備学習】人口動態を調べる
2	子どもの発育	・発育の特徴 ・身体測定 ・発育の評価 ・グループワーク 【準備学習】「成長」と「発達」の違いを調べる
3	子どもの体	・ヒトの体とその働き、しくみ ・呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系等 【準備学習】体の司令塔について調べる
4	こどもの発達（発達段階）①	・発達段階 ・原子反射、神経系 運動 感覚器 運動機能の発達と評価 【準備学習】身体、運動能力の発達を調べる
5	こどもの発達（発達障害）②	・発達障害とその支援 ・LD、ADHD、ASDについて ・知的、視覚、聴覚、肢体障害 ・グループワーク 【準備学習】インクルーシブについて調べる
6	子どもの健康状態	・日常の観察のポイント ・正しい体温、脈拍、呼吸数の計り方 ・グループワーク 【準備学習】日常の観察のポイントを調べる
7	子どもの病気とその対処法・与薬	・子どもの病気の特徴 ・発熱、嘔吐、下痢、けいれん等 【準備学習】子どもの病気の特徴について調べる
8	感染症	・「感染」と「罹患」 ・感染源、感染経路、免疫 ・グループワーク 【準備学習】子どもによくみられる感染症を調べる
9	予防接種	・予防接種の目的 ・任意接種と定期接種 ・母子手帳の確認 ・グループワーク 【準備学習】予防接種の目的を調べる
10	保育における環境 子どもの事故	・施設内の環境整備 ・子供の事故の特徴、予防 ・安全対策 ・グループワーク 【準備学習】事故の起こりやすい場所と時間帯について調べる
11	応急処置	・直ちに処置の必要な状態 ・よく起こる怪我 ・応急処置 ・グループワーク 【準備学習】直ちに119番通報が必要な時はどんな時か調べる
12	慢性疾患、アレルギー	・神経、筋疾患 ・内分泌疾患 ・先天性循環器疾患 ・アレルギー疾患 ・エピペン 【準備学習】子どもの慢性疾患について調べる
13	子どもの保健的対応	・保健管理、健康教育とは ・抱っこ、おんぶ、おむつ替え、沐浴 ・グループワーク 【準備学習】健康教育について調べる
14	災害への備え	・避難訓練（火災・地震）、防犯訓練、引き渡し訓練 ・災害時対応 ・心のケア ・グループワーク 【準備学習】非常持ち出し物品について調べる
15	地域保健活動と保育	・地域社会での子ども関連支援と社会資源との連携 ・グループワーク 【準備学習】地域の子ども、子育て支援事業について調べる

科目名	健康				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に示す領域「健康」の「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力」について、次の内容を中心に学び、グループワークを通して理解を深めていく。①領域「健康」の位置づけ②乳幼児期の健康な体と心③幼児期の運動発達課題④戸外遊び・自然遊びの意義⑤子どもの安全な生活とケガや事故。また、クエスタントにて授業内容の理解度把握を行う。

《授業の到達目標》

①領域「健康」のねらい・内容・内容の取扱いを理解し、乳幼児期の健康について説明できる。②乳幼児期のからだの発育・発達を理解し、援助していくうえで配慮すべき点を説明できる。③乳幼児期の安全や健康に関する管理と教育を理解し、配慮すべき点を説明できる。④領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の「体育」等とのつながりを説明できる。

《成績評価の方法》

授業における提出課題・発表（30%）、定期試験（70%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

○近喰晴子 他編著：保育内容「健康」と指導法 考える・広がる・つながる 中央法規出版○幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示

《参考図書》

○河邊貴子他編著：保育内容「健康」 ミネルヴァ書房 2020
○清水将之他編著：改訂版〈ねらい〉と〈内容〉から学ぶ保育内容・領域健康 わかば社 2018
○幼稚園教育要領解説書，保育所保育指針解説書，幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書 平成30年3月
○その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、各回の[準備学習]に示したテキスト等の該当頁を事前に読み授業に臨むこと。復習として、ノートおよびテキストを読み返しておく他、授業に関連する学習を自発的に行うこと。
（本科目は15時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて1時間の自主学習を行ってください）

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題は、次回以降の授業において、口頭やペーパー等にてフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	乳幼児期の健康課題	乳幼児期の健康と現代的課題について考える [準備学習]テキストの第15章（P183-P195）を事前に読んでおくこと
2	領域「健康」の位置づけとねらい・内容	領域「健康」の位置づけとねらい・内容・内容の取扱いを理解する [準備学習]テキストの第1章、2章（P1-P21）を事前に読んでおくこと
3	乳幼児期の体の形態的発育と健康	乳幼児期の形態的発育を知る [準備学習]テキストの第3章（P23-P28）を事前に読んでおくこと
4	乳幼児期の体の機能的な発達と健康	乳幼児期の体の機能的発達を知る [準備学習]テキストの第3章（P28-P36）を事前に読んでおくこと
5	乳幼児期の運動発達	乳幼児期の運動発達の特徴を理解し、遊びの援助について考える [準備学習]テキストの第4章（P37-P45）を事前に読んでおくこと
6	乳幼児期の視野	子どもの視野を体験し、子どもの動きについて考える（グループワーク） [準備学習]第3～5週で示したテキストの頁を事前に読んでおくこと
7	乳幼児期の生活リズムと生活習慣	乳幼児期における基本的な生活習慣の形成とその課題について考える [準備学習]テキストの第6章、7章（P61-P86）を事前に読んでおくこと
8	子どもの心の安定感と活動	子どもが「安定感を持って活動する」保育について考える [準備学習]領域健康のねらい・内容・内容の取扱いを事前に読んでおくこと
9	子どもの運動遊び	子どもが「自ら体を動かして活動することを楽しむ」保育について考える [準備学習]テキストの第9章（P101-P118）を事前に読んでおくこと
10	園生活の構築	子どもが「生活の場をつくりだす」保育について考える [準備学習]幼稚園等のホームページから園生活の流れを調べておくこと
11	自分のからだや健康への関心	子どもが「自分のからだや健康への意識を高める」保育について考える [準備学習]保育所保育士指針の第3章の1を事前に読んでおくこと
12	食育	幼稚園等における食育について考える [準備学習]テキストの第5章（P47-P59）を事前に読んでおくこと
13	乳幼児期の安全	乳幼児期のケガや事故の実態を知り、安全管理について考える [準備学習]テキストの第13章（P155-P166）を事前に読んでおくこと
14	安全教育	幼稚園等で行う安全教育について考える [準備学習]テキストの第13章（P155-P166）を事前に読んでおくこと
15	領域「健康」と小学校教育のつながり	領域「健康」における、幼児教育から小学校教育への見通しや接続について考える [準備学習]テキストの第14章（P167-P181）を事前に読んでおくこと

《専門科目》

科目名	人間関係				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ 1-1 教養 ☐ 2-2 知識・技能 ☐ 3-3 汎用的技能 ☐ 4-4 態度・志向性 ☒ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

生涯にわたる人間形成の基礎としての乳幼児期の人間関係の発達や関係性の機微を理解できるようにする。DVDの視聴や事例を読み、意見交換を行うことを通して、保育現場で子どもの姿と保育者の役割について理解する。

《テキスト》

『保育内容 人間関係～子どもの人との関わりと保育実践を学ぶ～』 藪中征代・近内愛子・玉瀬友美、萌文書林、2023

《参考図書》

・文部科学省特別選定DVD 3年間の保育記録 岩波映像株式会社
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）、フレーベル館、2018

《授業の到達目標》

- ・「人と関わる力」の発達過程を事例を通して学び説明することが出来る。あそびにおける集団活動の意義について学び説明できる。
- ・乳幼児期の教育の重要性について人間関係の視点から理解し説明できる。
- ・気になる子ども、多様な子どもとのかかわりを説明できる。
- ・小学校、保護者、地域と連携について説明できる。

《授業時間外学習》

予習と復習（概ね1時間）の自己学習が必要な科目である。

《成績評価の方法》

授業への積極的参加度（グループワーク、発表等）（30％）
確認テスト・提出物（40％）、最終レポート（30％）により得点化を行い、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

ワークシートでの課題を適時確認し、次回授業で解説する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	保育内容「人間関係」	保育・幼児教育の基本 領域「人間関係」とは 時間外学習(1時間):教科書1章を読んで予習する。復習をする。
2	保育内容「人間関係」のねらいや内容	領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱い 時間外学習(1時間):教科書2章を読んで予習する。復習をする。
3	0・1・2歳児の「人間関係」の発達	乳児の発児 1歳以上3歳未満児の発達 時間外学習(1時間):教科書3章を読んで予習する。復習をする。
4	3・4・5歳児の「人間関係」の発達	3歳以上児の子どもの発達 時間外学習(1時間):教科書4章を読んで予習する。復習をする。
5	遊びと人との関わり	仲間と遊ぶ楽しさ、イメージの共有 時間外学習(1時間):教科書5章を読んで予習する。復習をする。
6	道徳性の芽生え	道徳性の発達 共感と思いやりの育ち 時間外学習(1時間):教科書6章を読んで予習をする。復習をする。
7	対話的な学び	自立心の芽生えと自己主張 自立と依存 時間外学習(1時間):教科書7章を読んで予習をする。復習をする。
8	協同性の学び	個と集団の育ち 遊びの中でみられる人間関係 時間外学習(1時間):教科書8章を読んで予習をする。復習をする。
9	人との関わりを支える保育者の役割	信頼関係を基盤に人と関わる力を育む 時間外学習(1時間):教科書9章を読んで予習をする。復習をする。
10	人との関わりを支える保育者の計画	教材、保育環境を理解し、指導計画を立てる 時間外学習(1時間):教科書10章を読んで予習をする。復習をする。
11	日々の保育を支える人間関係	同僚性、保育者と保護者の協同性 時間外学習(1時間):教科書11章を読んで予習をする。復習をする。
12	特別なニーズをもつことへの支援	障がいのある子どもなどに対する保育者の配慮 時間外学習(1時間):教科書12章を読んで予習をする。復習をする。
13	家族の多様化と子どもの人間関係	子どもをとり巻く人的環境 文化の多様性 時間外学習(1時間):教科書13章を読んで予習をする。復習をする。
14	社会環境の多様性と子どもの人間関係	社会環境の変化と子育て 時間外学習(1時間):教科書14章を読んで予習をする。復習をする。
15	討議：子どもの「人間関係」を考える	レポートをもとにディスカッション 時間外学習(1時間):レポートの作成と全授業の振り返り。

《専門科目》

科目名	環境				
担当者氏名	花島 慶子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

本授業では、領域「環境」の指導で必要となる感性を養う。また、子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ち、主体的に関わるために必要な保育者としての知識及び技能を身に付ける。加えて、グループワークや発表・討議を通して、背景となる専門領域を深めると共に、コミュニケーションスキルなどの汎用的技能を修得する。

《授業の到達目標》

- (1) 幼児教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容、並びに全体構造を理解し、説明できる。
- (2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と取り扱い上の留意点を説明できる。
- (3) 子どもを取り巻く環境とその発達の意義を説明できる。
- (4) 発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な場面を想定した保育を構想することができる。

《成績評価の方法》

成績評価を全体で100%（総点100点）とし、「定期試験における筆記試験50%」「発表及びレポート35%」「課題提出・学習態度15%」の各評価の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

新・保育内容「環境」ラーニング・ストーリーで綴る学びの記録
永淵泰一郎編著 教育情報出版、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園保育教育要領解説

《参考図書》

- ・学びを支える保育環境づくり～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～高山静子著 小学館
- ・新訂 事例で学ぶ保育内容 領域環境 無藤隆監修 萌文書林

《授業時間外学習》

- ・本演習科目では、総計15時間の時間外学習が必要とされている。予習・復習として毎回1時間の学修が必要である。
- ・予習として、授業計画に示した学習内容についてテキストや文献などを検索してまとめる
- ・復習として、配布プリント・学習履歴表・テキストを振り返り理解を深める。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたレポートや学びを振り返る（メタ認知する）ためのリアクションペーパーにコメントを付して翌週以降に返却及びフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	保育内容「環境」の概要を理解する	保育所保育指針が示す保育の環境について理解する（グループワーク） [時間外学習] 保育所保育指針（P24～P26）テキストP10 に目を通してくる
2	環境を通して行う教育の意義と教師の意図	幼稚園教育要領が示す環境を通して行う教育について理解する（グループワーク） [時間外学習] 幼稚園教育要領（P26～P32）に目を通してくる
3	現代社会の乳幼児を取り巻く環境と、その課題	「環境を通して行う保育」をどのように実践するか（グループワーク・発表） [時間外学習] テキストP14第1章 乳幼児を取り巻く課題について調べてくる
4	乳幼児期の発達における環境との関わり	乳幼児期の能動性や好奇心、環境における有能感とは（発表・討議） [時間外学習] テキストP21第2章 乳幼児が安心できる環境について調べてくる
5	乳幼児の生物・自然との関わり	身近な生き物や自然との関わりにおける活動例（グループワーク・討議） [時間外学習] テキストP44 事例1～4を読み、保育者の関わりを考えてくる
6	栽培を通して知る探究心	植物の栽培に適した環境を考える（実践・グループワーク） [時間外学習] 季節ごとの主たる植物とその栽培方法を調べてくる
7	乳幼児期・児童期の認知的発達	認知的発達の特徴を理解し、環境構成の課題に気づく（グループワーク・発表） [時間外学習] テキストP29 第3章 発達の道すじについて調べてくる
8	乳幼児の物理的、数量・図形との関わり	物理的、数量・図形との関わりにおける興味・関心（発表・討議） [時間外学習] テキストP37 身近な事象に関心を持つ遊びや教材について調べてくる
9	乳幼児の標識・文字との関わり	認知的発達を踏まえた、標識・文字等との関わりとは（発表・討議） [時間外学習] テキストP51 標識や文字への関心を促す遊びや教材を調べる
10	乳幼児の情報・施設との関わり	乳幼児にまつわる情報や施設との関わりとは（情報機器の活用）テキストP58 [時間外学習] 乳幼児の生活圏にある施設及び情報機器の現状について考える
11	身近な環境との関わりに関する領域「環境」	幼稚園教育要領・保育所保育指針を通して環境を学ぶ（グループワーク・討議） [時間外学習] 幼稚園教育要領P193～P212保育所保育指針P145～P155 P228～P247
12	領域のあり方と、環境を通して行う教育の意義	5領域と三つの柱、10の姿との関連を考える（グループワーク・発表） [時間外学習] テキストP68 三つの柱及び10の姿について調べてくる
13	園内で行われる遊びや活動における環境	乳幼児の興味や関心の変化に応じた園内環境を理解する（学外体験学習） [時間外学習] テキストP77 各年齢に応じた環境の工夫について考えてみる
14	園庭で行われる遊びや活動における環境	五感を活用した原体験及びリスクとハザードについて（グループワーク・実践） [時間外学習] テキストP87 乳幼児期における原体験の必要性を考えてみる
15	乳幼児が探究できる遊びの環境	乳幼児が遊びを通して探究活動をできる環境を考える（グループワーク・実践） [時間外学習] 乳幼児の探究心と室内環境との関わりを考えてくる

《専門科目》

科目名	言葉				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能			

《授業の概要》

幼児期に育みたい資質・能力の一つである「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力」を養うことのできる保育者を目指し、領域「言葉」の背景となる専門的な知識を理解し、話し合いや発表を通して言葉の育ちを支える保育者としての意識を高める。また、毎時間のはじめに絵本の読み聞かせなどの発表学修を行う。

《授業の到達目標》

幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく言葉の内容と指導上の留意点を説明することができる。また、幼児教育・保育における評価の考え方を理解し、領域「言葉」と他領域の関わり、小学校の教科等とのつながりについて述べることができる。

《成績評価の方法》

定期試験の得点を60%、授業中の小レポートの得点を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）
「新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞言葉」2024年 萌文書林

《参考図書》

「よくわかる 言語発達」[改訂新版]2017ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

次の授業回で扱うテーマについて、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、テキストの該当ページを精読した上で、文献・インターネット等を用いて自己学習し授業に備えるとともに、授業後に学びの振り返りを行うこと。本授業では15時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業中のレポートにはコメントをつけてフィードバックするとともに、次の授業で解説して前時の振り返りをする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	幼児教育・保育の基本	幼稚園教育要領・保育所保育指針の全体構造と5領域について理解する。 〔時間外学習〕幼稚園教育要領・保育所保育指針に目を通しておくこと。
2	領域「言葉」のねらいと内容	教育要領・保育指針における領域「言葉」のねらいと内容について理解する。 〔時間外学習〕教育要領の第2章の「言葉」を読んでおくこと。
3	領域「言葉」と他領域との関係	領域「言葉」と他領域及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関わりを理解する。 〔時間外学習〕テキスト第1章§7を読んでおくこと。
4	乳幼児期の発達と言葉	乳幼児の言語発達の過程及び言語能力の特性について理解する。 〔時間外学習〕テキスト第2章§1を読んでおくこと。
5	乳幼児期の言語能力の育成	乳幼児の言語能力を育てるための大人の存在、保育者の姿勢及び指導上の留意点を理解する。 〔時間外学習〕テキスト第2章§2を読んでおくこと。
6	幼児の言葉の実際	遊びの中における幼児の言葉の実際と指導上の留意点を理解する。（グループワーク） 〔時間外学習〕テキスト第2章§3を読んでおくこと。
7	快・不快の気持ちを表現する幼児の言葉	様々な感情体験の中で生まれる、快・不快の言葉の実際と指導上の留意点を理解する。 〔時間外学習〕テキスト第3章§1を読んでおくこと。
8	自分の思いを表現する幼児の言葉	自分の気持ちや考えを表現する幼児の言葉の実際と指導上の留意点を理解する。 〔時間外学習〕テキスト第3章§2を読んでおくこと。
9	生活に必要な幼児の言葉	仲間との生活の中で必要な幼児の言葉の実際と指導上の留意点を理解する。 〔時間外学習〕テキスト第3章§3を読んでおくこと。
10	幼児の言葉の理解を促す指導	数量、大きさ、位置等を表す言葉の理解を促す指導とその留意点を理解する。（グループワーク） 〔時間外学習〕数量、大きさ、位置等の理解を促す工夫を考えておくこと。
11	文字に対する幼児の興味	文字に対する興味、文字で伝えることの楽しさを味わわせる工夫と指導上の留意点を理解する。 〔時間外学習〕テキスト第6章を読んでおくこと。
12	絵本と幼児の言語発達	幼児の言語発達の観点から見た絵本の特徴と読み聞かせの工夫について理解する。 〔時間外学習〕絵本を用意し、作品中の表現の特徴について調べておくこと。
13	絵本の読み聞かせと幼児の言語発達	絵本の読み聞かせと幼児の言語発達の理解及び指導上の留意点を理解する。（グループワーク、発表学修） 〔時間外学習〕読み聞かせの練習をしておくこと。
14	「ごっこ遊び」幼児の言語発達	様々な「ごっこ遊び」の中で育つ幼児の言葉の実際と指導上の留意点を理解する。（グループワーク） 〔時間外学習〕テキスト第7章を読んでおくこと。
15	領域「言葉」と小学校の教科との関連	領域「言葉」と小学校以降の教科等とのつながりについて理解する。 〔時間外学習〕テキスト第8章§4読んでおくこと。

《専門科目》

科目名	表現				
担当者氏名	古木 竜太、越智 光輝、大野 琴絵				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

表現活動の3領域である「音楽表現」、「造形表現」、「身体表現」の基礎的な知識を学ぶ。特に幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「表現」に示されている、ねらいおよび内容を理解し、保育現場で実践されている表現活動について理解を深める。また、本授業は「表現」をキーワードとして、幼少期の思いつきに関するグループディスカッションや保育者役となって表現活動を行うなど、実践的な学びを展開する。

《授業の到達目標》

本科目では、「音楽」「造形」「身体」の各表現の学びを通じて、以下の目標の到達を目指す。①保育現場における表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項を理解し、実践できる。②本科目の学習内容を踏まえ、「音楽表現領域指導法」「造形表現領域指導法」「身体表現領域指導法」の専門技能と保育実践力に関する基礎的な知識について説明できる。

《成績評価の方法》

①授業後の学習記録（30%）、②「音楽」「造形」「身体」に関する実技試験（60%）、③最終レポート（10%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

渡邊雄介（監修）芳野道子・越智光輝（編著） 他
 保育内容「音楽表現」 声から音楽へ 響きあう心と身体 福村出版株式会社

《参考図書》

①無藤 隆（監修）『事例で学ぶ〈領域〉表現』萌文書林
 ②井口太代表編者：「新・幼児の音楽教育」朝日出版社
 ③蓮見清一（発行人）『たのしい手あそびうた DVDブック』宝島社

《授業時間外学習》

各回の学習内容に提示した時間外学習について、図書やインターネットを用いて予習・復習すること。
 本授業は15時間の時間外学修を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業後に課題レポートを提示し、コメントを記載して返却する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	乳幼児期における表現活動の意義(古木)	幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「表現」のねらいと内容〔時間外学習〕「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の「表現」の箇所を読む（予習・復習1時間）
2	身体表現の特性と保育現場の活動（古木）	身体表現やダンス特性に関する考察、および保育現場における身体表現活動の実際〔時間外学習〕様々な国のダンス・民族舞踊について調べる（予習・復習1時間）
3	手遊びの実践（練習）（古木）	季節や行事に関連する手遊びの実践、動き・見せ方などの留意点〔時間外学習〕参考図書③など、できるだけ多くの手遊びについて調べる（予習・復習1時間）
4	表現遊びの実践（古木）	子どもの表現プロセスを学び、表現遊びを実践する。〔時間外学習〕幼少時代の遊び方を振り返り、表現に関する子どもの遊び方を考察する。（予習・復習1時間）
5	表現遊びの発表（古木）	第4回で実践した表現遊びの発表〔時間外学習〕発表する表現遊びについて演技方を練習する。自分のパフォーマンスを振り返る。（予習・復習1時間）
6	手遊びの実践・実技テスト（古木）	第3回で学習した手遊びをの発表、演技方の考察〔時間外学習〕手遊びを行う際の留意点について自己学習する（予習・復習1時間）
7	5領域：表現（造形表現）とは（大野）	乳幼児の表現（造形）活動の意味や考え方を知る〔時間外学習〕保育指針の乳児保育に関わるねらい及び内容、幼児期における領域「表現」のレポート（予習・復習1時間）
8	乳幼児の対話的な造形表現を知る（大野）	キャラクター制作を通して、乳幼児が造形し表現する楽しさや面白さを感じられる援助を考える。〔時間外学習〕キャラクターの構想を練る（復習1時間）
9	造形表現を起点に5領域を総合的に捉える(大野)	造形物（キャラクター）を起点に5領域を総合的に捉えた実践について考える。〔時間外学習〕自分のストーリーに合ったキャラクターを完成させる（復習1時間）
10	造形表現の実践・実技テスト（大野）	乳幼児が造形物（キャラクター）を通して、対話的な表現の楽しさや面白さを感じられる実践を行う〔時間外学習〕パペットを使った実践（発表）の練習（予習・復習1時間）
11	造形表現のまとめ（大野）	実践（発表）について、グループワークによる振り返り〔時間外学習〕自らの発表を振り返り、改善点についてまとめておく（予習・復習1時間）
12	音楽表現活動における導入（越智）	音楽表現活動における導入の留意点について、先行研究を通して学ぶ〔時間外学習〕幼少期にどのような歌唱を行ったか振り返る（予習・復習1時間）
13	子どもの音楽的発達段階（越智）	発声器官の発達と声域について〔時間外学習〕乳児期の聴覚の発達について調べておく（予習・復習1時間）
14	音楽表現活動における導入の実践（越智）	音楽表現活動における導入の実践（発表）〔時間外学習〕発表にむけての準備（予習1時間）
15	音楽表現活動における導入のまとめ（越智）	実践（発表）した音楽表現活動についてのグループワークによる振り返り〔時間外学習〕自らの発表を振り返り、改善点についてまとめておく（予習・復習1時間）

科目名	乳児保育Ⅰ				
担当者氏名	小澤 美鈴				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能			

《授業の概要》

乳幼児期は人間形成の基礎であり、特に人格形成には まわりの人々の関わりが大切である事を理解し、乳児が健康で安全に生活できるような環境を学び、発達に応じた遊びやかかわり方を身につける。また現在の子育て環境、子育て中の保護者の抱える社会的背景を理解し、情報収集やグループ討議、発表を通乳児保育が求められる責任について学ぶ。

《授業の到達目標》

乳児の成長発達、乳児への応答的な関わり方の基本を理解し、信頼感や非認知能力獲得につながるための保育者の意識、愛情表現の必要性を自らの言葉と考察で討議、表現することができる。また、乳児保育が必要とされる社会の変化、背景を理解し、子育て中の保護者への関わり方について討議を通して保育者としての考え方を持ち表現することができる。

《成績評価の方法》

授業中の小レポート・中間課題への取り組み（60％）最終レポート（40％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」 中央法規
保育所保育指針と解説書

《参考図書》

乳児の発達と保育 エイデル研究所
0歳児の育ちの事典 小学館
1歳児の育ちの事典 小学館
2歳児の育ちの事典 小学館

《授業時間外学習》

今回の授業内容を保育所保育指針、テキストの該当ページを精読し、文献やインターネット等を利用し、自己学習をする。専門用語については、参考書等を用いて事前調べを行い、グループ討議へ備え、小レポートを作成し、最終レポートへとつなげていく。時間外学習は、60時間必要である。

《課題に対するフィードバック等》

小レポート・中間課題の提出後、コメントを記載してフィードバックし、次の授業で返却、解説する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	乳児保育の意義	乳児保育の意義、目的、歴史的背景について知り、説明できる 〔時間外学習〕教科書第1講を読んでおくこと
2	乳児保育の歴史と現状、制度	子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について知り、討議できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第2講を読んでおくこと
3	保育所の乳児保育の現状	保育所における乳児保育、保育者の役割、仕事内容について知り、説明できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第3講を読んでおくこと
4	保育所以外の児童福祉施設における乳児保育	保育所以外の児童福祉施設における乳児保育・保育者の役割を知り説明できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書 第4講を読んでおくこと
5	家庭的保育、小規模保育所について学ぶ	家庭的保育、小規模保育所における乳児保育・保育者の役割を知り説明できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書 第5講を読んでおくこと
6	乳児を抱える家庭の環境	3歳未満児とその家庭をとりまく環境と子育て支援の場について知り、討議できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書 第6講を読んでおくこと
7	乳児の生活リズムと環境	3歳未満児の生活と環境について具体的な方法を知り、説明できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書 第7講を読んでおくこと
8	乳児の遊びと環境	3歳未満児の遊びと環境について具体的な方法を知り、討議できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書 第8講を読んでおくこと
9	幼児保育への移行の保育	3歳以上児の保育に移行する時期の保育について具体的な方法を知り、討議できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書 第9講を読んでおくこと
10	3歳未満児の発育、発達をふまえた援助と関わり	3歳以上児の発育、発達をふまえた保育者による援助と関わりを知り、討議できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書 第10講を読んでおくこと
11	3歳未満児のを踏まえた配慮	3歳以上児の発育、発達をふまえた保育の配慮について知り、説明できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書 第11講を読んでおくこと
12	乳児保育における計画、記録、評価の意義	乳児保育における計画、記録、評価とその意義について知り、応用ができる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書 第12講を読んでおくこと
13	職員間の連携について	乳児保育の職員間の連携、協働、チーム保育について知り、討議できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書 第13講を読んでおくこと
14	保護者との連携の大切さ	保護者との連携、協働、保護者支援取り組みについて知り、討議できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書 第14講を読んでおくこと
15	地域との連携	自治体や地域の関係機関等との連携、協働、実際の取り組みについて知り、討議できる 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書 第15講を読んでおくこと

科目名	保育のピアノ基礎 I				
担当者氏名	越智 光輝、山田 真澄、平峯 章生、渡邊 公実子、脇岡 龍耶				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 2-2 知識・技能 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園といった保育の現場での、ピアノを用いた音楽を伴う表現活動を実践できる人材となるために、個人レッスンによる指導を中心に、ピアノ曲（バイエル、ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタ）と童謡（子どもの歌）の弾き歌いの発表について、隔週で交互に取り組む。

《授業の到達目標》

保育の現場で求められる鍵盤楽器演奏能力における基礎技能を身につけることで、
・合格基準にもとづいて童謡の弾き歌いを6曲以上習得することができる。
・参考図書①～③より指定された1曲のピアノ曲を、決められた小節まで演奏できる。

《成績評価の方法》

ピアノ実技成果発表45%、童謡の弾き歌いの発表の合格数55%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

越智光輝 「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ！ レベルにあわせて楽しく弾ける50曲」
三恵社

《参考図書》

(1) 進捗状況に応じて次の①～③より各自で用意する。課題曲は、レッスンカードを参照すること。
①全訳バイエル 全音楽譜出版社
②ブルグミュラー25練習曲 全音楽譜出版社
③ソナチネアルバムⅠ巻 全音楽譜出版社
(2) 入学前教育及び授業内で配布されたプリント

《授業時間外学習》

授業（個人レッスン）は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つけた課題を解決する場と捉え、教員から提示された次回の授業までの課題曲を、自己学習しておく。（本授業では15時間の時間外学修が必要です。）

《課題に対するフィードバック等》

隔週で実施する童謡の弾き歌い発表及び14週目の授業でのピアノ実技成果発表について、実施後、授業内で改善点に関するフィードバックをバーバルコミュニケーションにて行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	学修の進め方について	授業内容と方法の説明、受講グループ及びピアノ曲の決定 〔時間外学習〕 次回授業にむけての練習（1時間）
2	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:1週目に決定したピアノ曲及び3週目で発表する童謡、3・4班:1週目に決定した童謡の弾き歌い発表〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
3	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:1週目に決定したピアノ曲及び4週目で発表する童謡〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
4	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に決定したピアノ曲及び5週目で発表する童謡、3・4班:3週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
5	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:3週目に提示されたピアノ曲及び6週目で発表する童謡〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
6	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に提示されたピアノ曲、7週目で発表する童謡、3・4班:5週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
7	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:5週目に提示されたピアノ曲、8週目で発表する童謡〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
8	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に提示されたピアノ曲、9週目で発表する童謡、3・4班:7週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
9	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:7週目に提示されたピアノ曲、10週目で発表する童謡〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
10	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に提示されたピアノ曲、11週目で発表する童謡、3・4班:9週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
11	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:9週目に提示されたピアノ曲、12週目で発表する童謡〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
12	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に提示されたピアノ曲、13週目で発表する童謡、3・4班:11週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
13	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:12週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:11週目に提示されたピアノ曲、15週目で発表する童謡〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
14	ピアノ実技成果発表	ピアノ曲の実技演奏（ノーカット、リピートなし）及び演奏の振り返り 〔時間外学習〕 次回にむけての練習（1時間）
15	童謡伴奏の習得、1年次後期における学び	童謡の弾き歌い発表、保育のピアノ基礎Ⅱでの学修計画 〔時間外学習〕 発表にむけての練習（1時間）

《専門科目》

科目名	保育の造形 I				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-2 知識・技能 ◎ 3-3 汎用的技能 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

子どもの豊かな表現を育成することを目的として、①身近な環境（ヒト・モノ・空間）を捉え直して造形活動に生かす方法について、②遊びの延長線にある乳幼児の造形活動について、③乳幼児の発達段階や造形素材・道具などの基礎知識について、④造形活動におけるドキュメンテーション（記録）の役割と作成方法について、を重点的に学ぶ。また、制作活動のほかにグループディスカッションや発表、ICTの活用を行う。

《授業の到達目標》

- ①乳幼児の造形活動の意義と目的を説明することができる。
- ②身近な環境を生かした造形活動を提案することができる。
- ③造形活動のプロセスと学びを捉えてドキュメンテーション（記録）することができる。
- ④造形活動における基礎的な知識を身につけ、乳幼児の発達段階に応じた造形活動を提案することができる。

《成績評価の方法》

授業ごとのリフレクションシート（20%）、ドキュメンテーション（30%）、課題作品（20%）、授業への参加度（グループワーク、作品制作への取組み等）（30%）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。
＊スケッチブック（B4）、デジタルカメラ（スマートフォン含む）、図工セットを毎回持参すること。

《参考図書》

- ①桐嶋 歩(著)、酒井 美里(写真)『そざい探求LABO』メイト, 2021
- ②キャシー・ワイズマン・トッパル『材料を探索する幼児の表現活動』あいり出版, 2023
- ③北沢昌代・畠山智宏・中村光絵『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第3版』開成出版, 2024

《授業時間外学習》

授業で身につけた知識と技法を、実習や学校内の制作活動で応用することなどを通して自己学習を行う。
また授業時間内において完成できなかった課題については、提示した期日までに自己学習の中で完成させ、提出すること。（本授業では、15時間程度の時間外学習が必要。）

《課題に対するフィードバック等》

授業ごとの課題（リフレクションシート）の内容は、次回の授業で全体に共有しフィードバックを行う。最終課題にはコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	造形表現の経験の振り返り／自己紹介カード	造形表現の経験をKJ法で振り返る学習。模倣を通して表現する学習（ディスカッション、制作）〔事後学習〕振り返りと記録素材の整理（ICTの活用）
2	環境と融合する造形「色・光・影・形」	色・光・影・形の遊びを通して、身近な環境を造形活動に生かす学習（制作、ICTの活用）〔事後学習〕振り返りと記録素材の整理（ICTの活用）
3	〇〇から始まる世界の創出	見立て遊びから展開する造形表現とストーリーテリングの学習（制作、発表）〔事後学習〕振り返りと記録素材の整理（ICTの活用）
4	ドキュメンテーションの作成（1）方法を学ぶ	ドキュメンテーションの役割を学び実践する学習（第1-3回分の制作）〔事前学習〕素材の選定・準備〔事後学習〕振り返りと記録作成（ICTの活用）
5	素材の可能性を探る①「新聞紙」	素材（新聞紙）を生かして企画・実践する学習（制作、グループワーク、発表）〔事前学習〕題材の検討〔事後学習〕振り返りと記録作成（ICTの活用）
6	素材の可能性を探る②「自然物」	身近な自然物を造形活動に取り入れる学習（制作、ICTの活用）〔事前学習〕素材の準備〔事後学習〕振り返りと記録作成（ICTの活用）
7	モダンテクニック①「フロッタージュ」	技法（フロッタージュ）を活用した造形活動を検討する学習（制作、ICTの活用）〔事後学習〕振り返りと記録作成（ICTの活用）
8	モダンテクニック②「マープリング」	技法（マープリング）を活用した造形活動を検討する学習（制作、ICTの活用）〔事後学習〕振り返りと記録作成（ICTの活用）
9	ドキュメンテーションの作成（2）実践	ドキュメンテーションの役割を学び実践する学習（第5-8回分の制作）〔事前学習〕素材の選定・準備〔事後学習〕振り返りと記録作成（ICTの活用）
10	五峯祭ポスター制作①アイデア出しと下書き	五峯祭のテーマに合わせたポスター制作の学習（制作）〔事前学習〕ポスターの事前調査〔事後学習〕振り返りと作品制作（ICTの活用）
11	五峯祭ポスター制作②色塗り仕上げ	五峯祭のテーマに合わせたポスター制作の学習（制作）〔事前学習〕ポスターの事前調査〔事後学習〕振り返りと作品制作（ICTの活用）
12	モダンテクニック③「スクラッチ」	技法（スクラッチ）を活用した造形活動を検討する学習（制作、ICTの活用）〔事後学習〕振り返りと記録作成（ICTの活用）
13	紙粘土でお弁当作り	紙粘土の扱いを学び、造形表現活動に取り入れる学習（制作）〔事前学習〕制作内容の検討〔事後学習〕振り返りと作品制作（ICTの活用）
14	作品を展示する	作品にキャプションをつけるなどの展示方法を学ぶ学習（制作）〔事前学習〕展示方法の検討〔事後学習〕振り返りと記録作成（ICTの活用）
15	まとめ 保育の造形を考える	「保育における造形」を考える（グループディスカッション）〔事前学習〕前授業を振り返る〔事後学習〕振り返りと記録作成（ICTの活用）

《専門科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	安食 邦明				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する教育課題を理解する。適宜、最新の教育ニュースを話題に出し、現代の教師に課せられた義務、果たすべき責任について、積極的な姿勢を培う。

《テキスト》

坂野慎二・湯藤定宗編著「学校教育制度概論〔第三版〕」玉川大学出版部 2022

《参考図書》

参考資料としてプリントを使用する。

《授業の到達目標》

- ①公教育の原理及び理念を説明できる。
- ②教育法規、日本や海外の教育制度について説明できる。
- ③就学前教育から高等教育、生涯学習まで、その仕組みを説明できる。
- ④学校を巡る近年の教育政策の動向について述べることができる。

《授業時間外学習》

- ・準備学習としてテキストを予め読み、事後学習として専門用語についての理解を深めておく。
- ・予習、復習(概ね4時間)の自己学習が望ましい。
- ・課題についてレポートを作成する。
- (本授業では60時間の時間外学修が必要です。)

《成績評価の方法》

定期試験40%、課題レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

毎授業時に実施する課題レポートは、次の授業の中でコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	公教育の基本原則	学校とは何か、教育の目的と公教育の原理。 〔時間外学習〕テキストのP. 11～19を読んでおくこと。
2	公教育の基本原則 教育法規	教育法規、日本の教育の現状について。 〔時間外学習〕テキストのP. 19～26を読んでおくこと。
3	学校教育制度 幼稚園	就学前教育制度の概要、幼稚園について。幼稚園の減少理由(グループ協議)。 〔時間外学習〕テキストのP. 27～37を読んでおくこと。
4	学校教育制度 保育所・認定こども園	保育所、認定こども園と就学前教育制度の状況。待機児童問題(グループ協議)。 〔時間外学習〕テキストのP. 38～47を読んでおくこと。
5	学校教育制度 義務教育	義務教育制度、その現状と課題について。就学義務と教育義務(グループ協議)。 〔時間外学習〕テキストのP. 49～59を読んでおくこと。
6	学校教育制度 特別支援教育	特別支援教育制度及びその国際動向について。 〔時間外学習〕テキストのP. 59～67を読んでおくこと。
7	教育政策の動向 学習指導要領	学習指導要領、様々な会議について。3つのポリシーについて(調べ学習)。 〔時間外学習〕学習指導要領の変遷について調べておくこと。
8	教育政策の動向 国内の教育を巡る動き	国内の教育を巡る動きについて。これから必要な能力について(グループ協議)。 〔時間外学習〕高大接続改革、教育振興基本計画について調べておくこと。
9	学校教育制度 高等学校	後期中等教育の概要について。高校進学率の上昇について(グループ協議)。 〔時間外学習〕テキストのP. 69～73を読んでおくこと。
10	学校教育制度 後期中等教育の多様化	後期中等教育の多様化及びその費用について。高校入試制度(調べ学習)。 〔時間外学習〕テキストのP. 74～85を読んでおくこと。
11	高等教育と生涯学習 高等教育機関	高等教育機関の種類について。 〔時間外学習〕テキストのP. 87～93を読んでおくこと。
12	高等教育と生涯学習 高等教育機関の役割	高等教育の社会的役割と生涯学習について。生涯学習の役割(グループ協議)。 〔時間外学習〕テキストのP. 87～103を読んでおくこと。
13	教育行政制度 文部科学省	国の教育行政制度の基礎、教科用図書について。 〔時間外学習〕テキストのP. 105～115を読んでおくこと。
14	教育行政制度 国・地方の教育行政	国の教育行政の諸領域、地方教育行政の基礎について。 〔時間外学習〕テキストのP. 115～131を読んでおくこと。
15	教育行政制度 地方教育行政の役割	地方教育行政の役割と教育財政について。 〔時間外学習〕テキストのP. 131～140を読んでおくこと。

《専門科目》

科目名	子どもの食と栄養				
担当者氏名	大野 智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

子どもの健全な発育・発達に欠かせない乳幼児期の適切な栄養摂取の方法や食生活についてを学ぶ。
具体的には、基本的な栄養学の知識を身に付けた上で、子どもの栄養の重要性や発育・発達、成長に応じた栄養の必要性を知る。また、子どもに多い疾患やその際の食事管理や必要な食事の取り方などの基本を理解する。さらに、子どもや保護者に食の大切さを伝える視覚媒体の作成も行う。

《授業の到達目標》

栄養素の基本を理解し、活用できる。
育児用粉乳の衛生的で安全な取り扱い、正しく調乳できる。
離乳食について理解し、進め方について正しく伝えられる。
乳幼児期の栄養の特性や、年齢に応じた食生活を説明できる。
食事のマナーや作法を理解し子どもに正しく伝えられる。
衛生面に配慮し、安全に食育活動をすすめることができる。
年間行事と行事食を理解し、保育に生かすことができる。

《成績評価の方法》

評価は、定期試験（40%）
小テスト（20%）
課題・レポート（20%）
媒体発表・態度（20%）
総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

- ・子どもの食と栄養 第3版 保育現場で活かせる食の基本 (株)羊土社
- ・八訂準拠ビジュアル食品成分表 (株)大修館書店

《参考図書》

- ①「食育実践ハンドブック」明日の授業で生かせるアイディア70 三省堂
- ②楽しくわかる「栄養学」 羊土社
- ③「栄養の基本がわかる図解事典」栄養用語がまるわかり！ 成美堂出版

《授業時間外学習》

ノートは各回ごとに回数、月日を記入し講義・実習内容を見やすく、わかりやすくまとめ、配布したプリントもきちんと綴ること。
あらかじめ示されたページを予習しておくこと。
本授業では、予習・復習を含めて60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

小テストは模範解答を行う。また、課題や媒体発表については、その都度コメントをしフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と食生活の意義	日本人の健康問題・食生活上の問題について理解する。避けたい7つの「こ食」について学ぶ。〔準備学習〕テキストのP10～21を事前に読んでおく
2	栄養に関する基礎知識	栄養と栄養素の言葉の意味を理解する。栄養素の種類と働きを学ぶ。〔準備学習〕テキストのP22～35を事前に読んでおく
3	栄養に関する制度 日本人の食事摂取基準	日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド、献立作成について学ぶ。〔準備学習〕テキストのP36～45を事前に読んでおく
4	栄養に関する制度② 食中毒の種類と予防	食中毒予防と衛生管理について学ぶ。〔準備学習〕テキストのP45～46を事前に読んでおく
5	妊娠期と授乳期の食生活	妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活を知り、理想的なバランスの良い食事を選択することができる。〔準備学習〕テキストのP48～61を事前に読んでおく
6	乳児期の食生活	母乳栄養と人工栄養について学ぶ。〔準備学習〕テキストのP62～68を事前に読んでおく
7	調乳実習 【実習】	乳汁栄養の理解と調乳に必要な器具や備品を衛生面に配慮し調乳・洗浄ができる。〔準備学習〕テキストのP66～68を事前に読んでおく
8	離乳の意義と実践	離乳から離乳食への移行について理解し、離乳食への進め方について学ぶ。〔準備学習〕テキストのP68～75を事前に読んでおく
9	幼児期・学童期・思春期の食生活 【小テスト】	この時期特有の身体的発育・発達構造を理解したうえで、生活習慣予防を視野に入れた栄養・食生活について学ぶ。〔準備学習〕テキストのP76～105を事前に読んでおく
10	生涯発達と食生活	生涯発達の視点から、出生前の胎児期から死に至るまでの食生活について学ぶ。食育の意義・目的と基本的な考え方を学ぶ。〔準備学習〕テキストのP106～116を事前に読む
11	食育の基本と内容	保育の一環としての食育実践を理解する。PDCAサイクルを循環させた食育の実践を学ぶ。〔準備学習〕テキストのP117～131を事前に読んでおく
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	急な体調不良時の対応を理解する。小児の先天的な疾患の種類を知り、障がいのある子どもの特性と支援方法を学ぶ。〔準備学習〕テキストのP144～160を事前に読んでおく
13	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養	食物アレルギーの定義と症状を理解し、適切な対応を学ぶ。生活管理指導表を理解する。〔準備学習〕テキストのP161～170を事前に読んでおく
14	行事と食について	それぞれのテーマに基づき作成した、行事と食についての媒体を発表する。〔準備学習〕与えられた発表時間を守り発表できるよう練習しておく
15	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	児童福祉の種類を知り、児童の特性に応じた給食の役割について学ぶ。〔準備学習〕テキストのP132～142を事前に読んでおく

《専門科目》

科目名	健康領域指導法				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に則り、子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養える保育・援助の方法について次の事項を中心にグループワークや模擬保育を通して実践的に学ぶ。①遊びを中心とした保育と健康のねらい ②児童文化の活用 ③健康な生活習慣の獲得 ④運動遊びの実践 ⑤安全安全管理と安全指導。なお、本授業では、クエスタントにて授業内容の中間理解度把握を行う。

《授業の到達目標》

①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育を構想し表現することができる。②領域「健康」の特性を考慮した情報機器及び教材の活用ができる。③指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善することができる。⑤領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

《成績評価の方法》

授業における提出課題（30％） 発表（30％） 授業後に提出する小レポート（20％） 最終課題（20％）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

○近喰晴子 他編著：保育内容「健康」と指導法～考える・広がる・つながる～ 中央法規出版 2025 ○幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領

《参考図書》

○池田裕恵編著：子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」第二版 杏林書院 2018 ○河邊貴子 他編著：保育内容「健康」ミネルヴァ書房2020 ○岩崎洋子編：保育と幼児期の運動あそび2018 第二版 萌文書林 2018 ○小櫃智子：幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド わかば社 2017 ○その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、各回の[準備学習]に示した内容を行い、授業に臨むこと。復習として、授業で学んだことをノートにまとめておくこと（本授業は15時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて1時間の自主学習を行ってください）。

《課題に対するフィードバック等》

授業後に提出する小レポートは、次回以降の授業において、口頭やペーパー等にてフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	保育者の役割	領域「健康」の指導における保育者の役割について考える [準備学習]1年前期科目「健康」での学びを確認しておく
2	領域「健康」にかかわる絵本	領域「健康」にかかわる絵本の活用の仕方を考える [準備学習]領域「健康」にかかわる絵本を選んでおく
3	領域「健康」に関する絵本の読み聞かせ	模擬保育①「健康」に関する絵本の読み聞かせ等の実践、相互評価（グループワーク） [準備学習]読み聞かせするにふさわしい絵本を事前に選び、読んでおく
4	絵本紹介(1)個人POPの作成	自身が選んだ絵本の紹介POPを書く [準備学習] 選んだ絵本を読み込むとともに、作者等について調べておく
5	絵本紹介(2)グループPOPの作成	グループメンバーが選んだ絵本の紹介POPから共通点を見つけ、グループPOPをを作成する [準備学習] グループメンバーが選んだ絵本を読んでおく
6	絵本の紹介(3) グループPOPの紹介	グループごとにグループPOPを紹介（発表）する [準備学習] 発表に向けて準備する
7	指導案の立案	領域「健康」をテーマとした指導案の作成（グループワーク） [準備学習]「実習パーフェクトガイド」などの参考図書の指導案例を読んでおく
8	指導案に基づく準備	模擬保育に向けての教材研究（グループワーク） [準備学習]テキストの模擬保育に関する箇所を読んでおくこと。加えて、必要な教材を準備しておく
9	指導案に基づく模擬保育と評価(1) 食育	食育にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
10	指導案に基づく模擬保育と評価(2) 生活習慣	生活習慣にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
11	指導案に基づく模擬保育と評価(3) 安全	安全にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
12	指導案に基づく模擬保育と評価(4) 健康・遊び	健康及び遊びにかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
13	指導案の評価と改善	模擬保育の評価により見出された課題を検討し指導案を修正 [準備学習]自グループの模擬保育を振り返り、評価しておく
14	保育に生かす安全マップ(1) 作成	安全マップの作成（グループワーク） [準備学習]安全マップのレイアウトを考えておく
15	保育に生かす安全マップ(2) 発表	安全マップの発表（グループワーク） [準備学習]作成した安全マップを紹介できるよう準備しておく

科目名	環境領域指導法				
担当者氏名	花島 慶子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

本授業では、グループワーク、発表・討議を通して、幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていくための指導力を身に付けることを目指す。また、具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付けるため、指導計画の作成と模擬保育を行う。更に、保育者として必要なコミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル等を修得する。

《授業の到達目標》

- (1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を説明できる。
- (2) 領域の特性と幼児の体験との関連を考慮した教材及び情報機器の活用法を習得し、保育の構想に活用できる。
- (3) 具体的な保育を想定した指導案が作成できる。
- (4) 保育を改善する視点を身に付け、課題や保育実践を踏まえた保育構想の向上に取り組むことができる。

《成績評価の方法》

全体で100%（総点100点）とし、「定期試験における筆記試験50%」「発表及びレポート（学習指導案を含む）35%」「課題提出・学習態度15%」の各評価の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

新・保育内容「環境」ラーニングストーリーで綴る学びの記録 永淵泰一郎編著、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園保育教育要領解説

《参考図書》

- ・新訂 事例で学ぶ保育内容 領域「環境」 無藤隆監修 萌文書林
- ・学びを支える保育環境づくり～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～高山静子著 小学館

《授業時間外学習》

- ・本演習科目では総計15時間の時間外学習が必要とされている。予習・復習として毎回1時間の学修が必要である。
- ・事前学習として、授業計画に示した学習内容についてテキストや文献を検索してまとめてくる。
- ・事後学習として、学修を振り返り理解を深める。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたレポートや学びを振り返る（メタ認知）ため、毎回授業で作成したリアクションペーパーにコメントを付して、翌週以降フィードバック及び解説を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	環境における衛生管理並びに安全管理	保育所における衛生管理、事故防止及び安全管理（発表・討議） [時間外学習] 保育所保育指針P316～P321衛生管理、安全管理について学習
2	保育構想①動物・小動物に関わる環境	動物・小動物との関わりを通して知る命の大切さ（グループワーク・発表） [時間外学習] テキストp107 飼育を通して生命を大切に作る指導方法の収集
3	保育構想②数量・図形に関わる環境	数量・図形等の概念を取得できる保育構想と実践（実践・発表） [時間外学習] テキストP117 数量や図形に興味・関心を持たせる指導方法の収集
4	保育構想③標識・文字に関わる保育の環境	標識や文字等に興味・関心を持たせる保育構想と実践（発表・討議） [時間外学習] テキストP127 標識や文字に興味関心を持たせる指導方法の収集
5	保育構想④自然に親しみ植物に触れる環境	自然との関わりにおいて共生する姿勢及び保育者の視点を考える（実践・討議） [時間外学習] テキストP97 栽培などを通して生命を大切に作る指導方法の収集
6	保育構想⑤地域環境と園外保育の意義	情報や施設等に興味・関心を持たせる保育構想と実践（学外体験学習） [時間外学習] 情報や施設に興味・関心を持たせる指導方法の収集
7	保育構想と教材・情報機器の活用	乳幼児に興味・関心を持たせる環境図の作成（グループワーク・発表） [時間外学習] 大学周辺の地域環境を調査してくる
8	生活に関係の深い情報や施設に関わる環境	社会とのつながり等を持たせる保育環境構成と実践（発表・討議） [時間外学習] テキストP136 国旗・伝統行事、わらべ歌遊び等の指導方法の収集
9	指導計画における環境の構成①教師の援助	指導計画において、具体的なねらいが達成できる環境の構成①（発表・討議） [時間外学習] 幼稚園教育要領P102を熟読してくる
10	指導計画における環境の構成②指導案の書き方	指導計画において、具体的なねらいが達成できる環境の構成②（発表・討議） [時間外学習] テキストP148 生活の流れに応じた「環境」と遊びに着目する
11	領域「環境」指導方法、模擬保育の実施	作成した指導案を基に環境を構成し模擬保育を行う（グループワーク・討議） [時間外学習] テキストP153 指導案を基に行う模擬保育の準備をする
12	領域「環境」指導方法、模擬保育の評価改善	模擬保育の振り返りと領域「環境」を改善する視点（グループワーク・討議） [時間外学習] 自グループの模擬保育を振り返り環境の再構成を考えていく
13	環境の構成と保育の展開	幼稚園・保育所のクラス環境構成の検討（発表・討議） [時間外学習] テキストP159 各年齢における子どもの姿と環境の再構成を検討する
14	海外の環境保育①日本の保育との違い	海外の保育を知り日本の現状と照らし合わせ保育を見つめる（グループワーク） [時間外学習] テキストP170～P178興味を持った海外の保育を追求する
15	海外の環境保育②日本の保育に生かす	世界の優れた保育を日本の保育に生かす（発表・討議） [時間外学習] 海外の保育から見た日本の保育のメリット・デメリットを探究する

科目名	言葉領域指導法				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

幼児の言語発達の過程や特徴を理解し、自分なりの言葉で表現したり、相手の話す言葉を聞こうとしたりする幼児の意欲や態度を育てるための保育のあり方を学ぶ。また、手袋人形や絵本の製作、またそれらを使った発表学修を通して指導技術を身に付ける。その際、グループワークや発表学修を通して主体的な学びを深める。また、毎時間のはじめに絵本の読み聞かせ、手遊び等の発表学修を行い、互いに感想を交流して深め合う。

《授業の到達目標》

幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」のねらい、内容、全体構造を踏まえ、幼児が経験し身に付ける言葉の特性や内容、またそのための指導方法や指導上の留意点、評価方法を説明することができる。製作する様々な題材やそれを使った発表学修を通して、幼児の言葉の成長を支えるための具体的なポイントを説明することができる。

《成績評価の方法》

作品提出及び発表70%、小レポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

保育内容「言葉」と指導法（斎藤政子・編集）中央法規
「B4サイズ パネルシアター用Pペーパー並口」ひかりのくに

《参考図書》

必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業時間外学習》

次の授業回で扱うテーマについて、幼稚園教育要領・保育所保育指針を精読した上で、文献・インターネット等を用いて製作物の素材を検索したり、必要な材料を検討・準備したりするなど、自己学習に努める。本授業では15時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

作品、小レポートはそれぞれの内容の特性に応じた観点から数値評価して返却し、授業中に解説してフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	紙芝居 (1) 紙芝居の歴史	伝統文化の側面も含めた紙芝居の歴史やその特性について理解する。 〔時間外学習〕図書館で実際の紙芝居を手に取り、種類や内容を調べておく。
2	紙芝居 (2) 発表・振り返り	紙芝居の演じ方を工夫し、子どもの言葉の発達との関係について考える。（グループワーク） 〔時間外学習〕グループで選んだ紙芝居作品の発表の練習をしておくこと。
3	手袋人形シアター (1) 製作の基本・構想	手袋人形の作り方、演じ方の基本について情報検索し、製作の構想を練る。 〔時間外学習〕動画サイトで手袋人形シアターについて調べておくこと。
4	手袋人形シアター (2) 製作	演じ方をイメージしながら、手袋人形を製作する。 〔時間外学習〕発表に向けて製作を進めておくこと。
5	手袋人形シアター (3) 発表・振り返り	互いに発表し合い、手袋人形シアターと幼児の言語発達について考える。（発表学修） 〔時間外学習〕歌や言葉がけなどに注意しながら発表の練習をしておくこと。
6	しかけ絵本・赤ちゃん絵本 (1) 素材調べ	しかけ絵本・赤ちゃん絵本について様々な情報を集め、製作の構想を練る。 〔時間外学習〕ロバート・サブタのしかけ絵本について調べておくこと。
7	しかけ絵本・赤ちゃん絵本 (2) 製作	子どもの発達段階を意識した作品の製作を進める。 〔時間外学習〕製作に必要な材料・道具を準備しておくこと。
8	しかけ絵本・赤ちゃん絵本 (3) 仕上げ・練習	絵本作品を完成させ、効果的な読み聞かせについて工夫する。 〔時間外学習〕しかけ絵本の発表に向けて作業・練習を進めておくこと。
9	しかけ絵本・赤ちゃん絵本 (4) 発表・振り返り	製作した絵本を発表・鑑賞して、子どもの言葉の発達との関係について考える。（発表学修） 〔時間外学習〕絵本を完成させて、発表の仕方を考え練習しておくこと。
10	パネルシアター (1) しかけの理解	パネルシアターの様々なしかけを理解し、製作に向けた構想を練る。 〔時間外学習〕パネルシアターについて基本的な知識を調べておくこと。
11	パネルシアター (2) 製作	パネル絵の製作を進め、発表に向けた練習をする。 〔時間外学習〕演じてみたいパネルシアターの内容を考えておくこと。
12	パネルシアター (3) 発表・振り返り	パネルシアターを発表し合い、子どもの言葉の発達との関係について考える。（発表学修） 〔時間外学習〕パネル絵を仕上げ、発表に向けて練習しておくこと。
13	ペープサート (1) 基本的技法の理解	ペープサートの基本的な知識について理解し、製作に向けた構想を練る。 〔時間外学習〕ペープサートについて基本的な知識を調べておくこと。
14	ペープサート (2) 製作	ペープサートの作品製作を進め、発表に向けて練習する。〔時間外学習〕演じてみたいペープサートの内容、演じ方の工夫について考えておくこと。
15	ペープサート (3) 発表・振り返り	ペープサートを発表し合い、子どもの言葉の発達との関係について考える。（発表学修） 〔時間外学習〕ペープサートの作品を仕上げ、練習しておくこと。

《専門科目》

科目名	造形表現領域指導法				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

「保育の造形Ⅰ」で学んだ知識と技能を基に、以下の造形表現活動に関する指導方法を学び、模擬保育を計画・実践する。①乳幼児の発達段階、季節、行事を考慮した造形表現活動について、②保育の現場を想定した具体的な指導技術について、③造形表現活動の目的と内容に応じた指導案の作成についてまた、制作活動のほかにグループディスカッションや発表、ICTの活用を行う。

《授業の到達目標》

- ①子どもの発達段階を踏まえた造形表現活動の指導ができる。
- ②保育の現場（対象年齢、環境、季節などの諸要素）を考慮した造形活動を提案することができる。
- ③子どもの姿（想定）を元に、造形表現活動の指導案を書くことができる。
- ④模擬保育の実践を通して、子どもの造形表現活動における指導上の課題を明らかにすることができる。

《成績評価の方法》

授業ごとの課題（40％）、指導案（20％）、模擬保育（20％）、最終課題レポート（20％）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。
*A4ファイル、デジタルカメラ（スマートフォン含む）、図工セットを毎回持参すること。

《参考図書》

- ①文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018
- ②厚生労働省『保育所保育指針解説』、フレーベル館、2018
- ③北沢昌代・畠山智宏・中村光絵『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版』開成出版、2019
- ④磯部錦司・福田泰雅 他『保育のなかのアート』小学館、2015
- ⑤槇英子『保育をひらく造形表現〈第2版〉』萌文書林、2018

《授業時間外学習》

授業で身につけた知識と技法を、実習や学校内の制作活動で応用することなどを通して自己学習を行う。
また授業時間内において完成できなかった課題については、提示した期日までに自己学習の中で完成させ、提出すること。（本授業では、15時間程度の時間外学習が必要。）

《課題に対するフィードバック等》

授業ごとの課題（リフレクションシート）の内容は、次回の授業で全体に共有しフィードバックを行う。最終課題にはコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	造形活動の意義と位置づけ、子どもの描画理解	教育要領・保育指針における造形表現の意義や位置づけに関する学習、子どもの描画理解の学修（ワークシート）〔事後学習〕振り返りと課題の整理（ICTの活用）
2	折り紙の指導法（1） 折り紙指導の基礎	折り紙の指導法と展開、絵画展のメダル制作に関する学習（制作、ディスカッション）〔事後学習〕振り返りと課題の整理（ICTの活用）
3	折り紙の指導法（2） 折り紙活動の展開	折り紙の指導法と展開、絵画展のメダル制作に関する学習（制作、ディスカッション）〔事後学習〕振り返りと課題の整理（ICTの活用）
4	道具の指導法 はさみ・のり	造形活動の道具への理解と子どものへの指導法に関する学習（制作、ディスカッション）〔事後学習〕振り返りと課題の整理（ICTの活用）
5	描画材の指導法（1） クレヨン・パステル等	各種描画材への理解と子どものへの指導法に関する学習（制作、ディスカッション）〔事後学習〕振り返りと課題の整理（ICTの活用）
6	描画材の指導法（2） 水彩・アクリル絵の具等	各種描画材への理解と子どものへの指導法に関する学習（制作、ディスカッション）〔事後学習〕振り返りと課題の整理（ICTの活用）
7	技法の指導法と活用 張り子①基礎	技法（張り子）の理解と保育における活用に関する学習（制作、ディスカッション）〔事後学習〕振り返りと課題の整理（ICTの活用）
8	技法の指導法と活用 張り子②実践	技法（張り子）の理解と保育における活用に関する学習（制作、ディスカッション）〔事後学習〕振り返りと課題の整理（ICTの活用）
9	活動の展開 （集団⇔個人）	造形表現活動の展開方法（集団⇔個人）に関する学習（制作、ワークシート）〔事後学習〕振り返りと課題の整理（ICTの活用）
10	教材研究① 教材開発	教材研究を理解し、教材研究を実施することにより教材への理解を深める学習（制作、ワークシート）〔事前学習〕研究内容の検討と準備〔事後学習〕振り返り
11	教材研究② 部分実習指導案の立案	教材研究を行った結果を指導案に活かす。（制作、ワークシート）〔事前学習〕指導案の作成と準備〔事後学習〕振り返りと課題の整理（ICTの活用）
12	模擬保育①前半グループ （個別発表）	指導案に基づく模擬保育の実践、子どもの視点に関する学習（発表、ワークシート）〔事前学習〕指導案の作成と準備〔事後学習〕相互添削と振り返り
13	模擬保育②後半グループ （個別発表）	指導案に基づく模擬保育の実践、子どもの視点に関する学習（発表、ワークシート）〔事前学習〕指導案の作成と準備〔事後学習〕相互添削と振り返り
14	模擬保育後の評価・反省	模擬保育を振り返り、計画と実践の往還を通して指導案に修正を加える。（ディスカッション）〔事前学習〕実践後の振り返り〔事後学習〕指導案の修正
15	保育における造形表現の指導を考える	保育における造形表現活動の指導を考える（ディスカッション・プレゼンテーション）〔事後学習〕振り返りと課題の整理（ICTの活用）

《専門科目》

科目名	身体表現領域指導法				
担当者氏名	古木 竜太				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

本科目は全15回の授業で「こころ」と「からだ」を用いた表現について、主にグループワークを通じて学ぶ。それは、自由な発想やイメージによる自己表現を共有する授業であり、あらゆる自己表現を互いに認め合う態度を養う。子どもの表現を引き出すためには、保育者自身が豊かな感性を磨いていく必要がある。そのために、自由に身体を動かす楽しさを学び、他者の表現を尊重しながらグループで協力して身体表現を創作する。

《授業の到達目標》

保育現場で実践できる身体表現技能を身につけるため、次の目標達成を目指す。①自らの体験を通して身体表現活動の楽しさを味わい、身体表現技能を修得できる。②保育活動の視点から、身体表現活動への展開方法について学び、実践できる。③幼児の感性・創造性を尊重し、共感できる態度を身につけ、幼児の表現を評価できる。

《成績評価の方法》

授業内で実施する各種実技試験60%、毎回の学習記録30%、最終レポート10%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

- ①井上勝子他『新訂 豊かな感性を育む身体表現遊び』ぎょうせい
- ②魚住美智子、大方美香『幼児の身体表現 保育・教育シリーズ』久美
- ③渡邊雄介監修、芳野道子、越智光輝編著「保育内容『音楽表現』声から音楽へ 響きあう心と身体」

《授業時間外学習》

本授業で取り組む、身体表現について、TEAMSに提示する実技課題動画を参考にしながら予習・復習しておくこと。また、各学習内容に関する事柄について、図書またはインターネットなどを用いて予習・復習しておくこと。（本授業では15時間の時間外学習を必要とする）

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業後に提出する学修ポートフォリオに対してコメントを記載する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	幼児期における身体表現活動の意義	子どもの感性と身体表現、保育者の指導・援助に関する理解〔時間外学習〕TEAMSで提示した実技課題動画①②を視聴し予習・復習すること（合計1時間）
2	「からだ」のコミュニケーション	身体に着目した他者との関わり、立腰（実技試験）〔時間外学習〕本次で取り組んだ実技試験の内容についてスムーズにできるように反復すること（予習・復習1時間）
3	新聞紙を用いた表現活動（練習）	走る、模倣、破く、ゲームなど新聞紙を用いた活動の指導・留意点〔時間外学習〕参考図書①pp77～85の内容について予習・復習すること（合計1時間）
4	新聞紙を用いた表現活動（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
5	パラバルーン（練習）	基本的なパラバルーンの扱い方、基本的な技の練習〔時間外学習〕TEAMSで提示した実技課題動画③を視聴し予習・復習すること（合計1時間）
6	パラバルーン（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
7	スポーツの表現（練習）	スポーツを題材とした即興的な身体表現の創作〔時間外学習〕TEAMSで提示した資料の内容について予習・復習すること（合計1時間）
8	スポーツの表現（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
9	からだで窓をつくろう（練習）	個の表現から群の表現へと発展する身体の使い方〔時間外学習〕TEAMSで提示した資料の内容について予習・復習すること（合計1時間）
10	からだで窓をつくろう（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
11	リズムダンスの創作（基礎）	動きに関する基礎的な創作方法〔時間外学習〕TEAMSで提示した実技課題動画④を視聴し予習・復習すること（合計1時間）
12	「夏」の表現（練習）	夏を題材とした即興的な身体表現の創作〔時間外学習〕TEAMSで提示した資料の内容について予習・復習すること（合計1時間）
13	「夏」の表現（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
14	リズムダンスの創作（練習）	オリジナルの動きを取り入れたリズムダンスの創作〔時間外学習〕実技試験に備えて、正確な動作、再現性を高める練習をすること〔予習・復習1時間〕
15	リズムダンスの創作（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験、本授業の総括〔時間外学習〕実技試験の内容を予習し、自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）

《専門科目》

科目名	乳児保育Ⅱ				
担当者氏名	小澤 美鈴				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

現代の子育て世帯の抱える状況を考慮し、職員、保護者、地域、他機関 などとの連携の重要性を理解し、保育者に求められている様々な役割、3歳未満児の保育について、乳児保育Ⅰの内容を踏まえ、グループワークを行い、具体的な演習や事例検討をとおして実践的な理解を深め、自らの知識技術を修得し、主体的な学びを深める。毎時間に絵本の読み聞かせや手遊び等の発表を行い、互いに技術習得につなげていく。

《授業の到達目標》

- ・3歳未満児の発育、発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本を理解し、説明することができる。
- ・養護と教育を踏まえた、3歳未満児の生活と遊び、保育の方法、環境について具体的に理解し、説明することができる。
- ・乳児保育における配慮の実践について、具体的な方法を理解し、説明、実践することができる。

《成績評価の方法》

課題への取り組み（20％）・中間課題（40％）・最終課題（40％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規
「保育所保育指針と解説書」

《参考図書》

「乳児の発達と保育」エイデル研究所
「保育を変える記録の書き方評価のしかた」今井和子 ひとなる書房

《授業時間外学習》

今回の授業内容を保育所保育指針、テキストの該当ページを精読し、文献やインターネット等を利用し、自己学習をする。専門用語については、参考書等を用いて事前調べを行う。教員からのフィードバックを基に、学習内容を振り返る。本授業では、15時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

各回の学びについて共有し、前回の振り返りと受講者の学びの観点について確認とフィードバックを行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	乳児保育の基本	子どもと保育者との関係性の重要性、個々に応じた援助や受容的・応答的な関わりについて知り、討議できる〔時間外学習〕教科書第1講を読んでおくこと
2	0歳児クラスにおける生活と遊びの実践	0歳児クラスの生活の流れについて知り、応用できる〔時間外学習〕教科書第1講を読んでおくこと
3	0歳児クラスにおける保育環境	0歳児クラスの保育環境について知り、討議できる〔時間外学習〕教科書第2講を読んでおくこと
4	0歳児クラスの援助の実践（1）抱っこ等	0歳児クラスの援助の実践を知り、実施できる（おんぶ、だっこ、オムツ交換、衣服の着脱）〔時間外学習〕教科書対象の内容を読んでおくこと
5	0歳児クラスの援助の実践（2）食事介助等	0歳児クラスの援助の実践を知り、実施できる（調乳、授乳、離乳食）〔時間外学習〕教科書対象の内容を読んでおくこと
6	1歳児クラスにおける生活と遊びの実践	1歳児クラスの生活の流れ、保育環境について知り、討議できる〔時間外学習〕教科書第5・6講を読んでおくこと
7	1歳児クラスの援助の実践	1歳児クラスの援助の実践を知り、討議できる〔時間外学習〕教科書第7講を読んでおくこと
8	2歳児クラスにおける生活と遊びの実践	2歳児クラスの生活の流れ、保育環境について知り、討議できる〔時間外学習〕教科書第8.9講を読んでおくこと
9	2歳児クラスの援助の実践	2歳児クラスの援助の実践を知り、実施できる〔時間外学習〕教科書第10講を読んでおくこと
10	心身の健康、安全、情緒の安定を図るための配慮	子どもの心身の健康、安全、情緒の安定を図るための配慮を知り、討議できる〔時間外学習〕教科書第11講を読んでおくこと
11	集団での生活における配慮	集団での生活における配慮について知り、討議できる〔時間外学習〕教科書第12講を読んでおくこと
12	環境の変化や移行に対する配慮	各学年における進級時の環境の変化や移行に対する配慮について知り、討議できる〔時間外学習〕教科書第13講を読んでおくこと
13	保育看護について	体調不良時の早期発見、対応の仕方、身体測定方法について知り、実施できる〔時間外学習〕教科書対象の内容を読んでおくこと
14	乳児保育における計画の実践	個別的な指導計画と集団の指導計画について知り、説明できる〔時間外学習〕教科書第14.15講を読んでおくこと
15	家庭との連携	連絡帳の目的と書き方 連絡帳の記入方法を知り、実施できる〔時間外学習〕教科書対象の内容を読んでおくこと

《専門科目》

科目名	特別支援保育Ⅰ				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

保育の現場では、さまざまなニーズのある子どもたちへの理解に基づいた個別の対応が求められている。本授業では、特別支援保育に関する基礎的知識や技法を、事例を通してグループディスカッションなどを通して実践的に学ぶ。また、さまざまな子どもたちがともに学ぶための合理的配慮や、実際の現場で求められる家庭や関係機関との連携について学び、特別支援保育Ⅱでの具体的な保育展開力につなげる。

《授業の到達目標》

- ①障害児保育や特別支援保育についての理念から、保育者の役割について説明することができる。
- ②各障害の定義と特性について説明することができる。
- ③障害の特性に合わせた支援法や配慮，環境構成について論じることができる。
- ④家庭および関係者との連携の取り方について論ずることができる

《成績評価の方法》

授業の到達目標に基づき，課題等提出物20％，授業内の取り組み・発言等20％、定期試験60％で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

●綿引清勝・東敦子・佐々木敏幸 支援を要する子の障害児保育・特別支援教育 保幼小の連続的な学び 中央法規出版 2026 出版予定

《参考図書》

●前田泰弘編著「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」第2版 萌文書林, 2024「幼稚園教育要領 平成29年告示」フレーベル館

《授業時間外学習》

授業計画に示した教科書の範囲に沿って、予習や復習に取り組んでください。また、インターネット記事や、TV・映画・書籍などを通して、特別なニーズのある子どもや家族の立場を理解したり、身近にどのような支援の場があるかなどについて調べ、考察につなげるようにしましょう。
(本授業では15時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

授業内の発表・発言に対してコメントでフィードバックします。提出課題については、全体で共有して、意見交換による学びを深めることがあります。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	障害児保育・特別支援保育とは	「障害」とは何かについて学び、インクルージョン保育の理念について知る。 予習：参考図書p12～22 復習：授業配布プリント
2	障害児保育・特別支援保育の基本	発達の見方と評価の方法について学ぶ。 予習：参考図書p23～39 復習：授業配布プリント
3	知的障害の理解と保育	知的障害の理解と保育の実践について学ぶ。 予習：参考図書p40～50 復習：授業配布プリント
4	肢体不自由の理解と保育の計画	4章肢体不自由について学ぶ。8章保育の計画について学ぶ。 予習：参考図書p51～59 116～122 復習：授業配布プリント
5	聴覚障害の理解と保育	4章聴覚障害について学ぶ。8章評価の仕方の実践を知る。 予習：参考図書p60～64 123～130 復習：授業配布プリント
6	視覚障害の理解と保育	4章視覚障害について学ぶ。 予習：参考図書p65～70 復習：授業配布プリント
7	言語障害の理解と保育	4章言語障害について学ぶ。 予習：参考図書p71～76 復習：授業配布プリント
8	気になる子どもの理解	5章気になる子どもを理解する。9章子どもの発達を促す遊びを学ぶ。 予習：参考図書p77～86 131～142 復習：授業配布プリント
9	自閉スペクトラム症の理解と保育	6章自閉スペクトラム症について 10章他者とのかかわりについて学ぶ。 予習：参考図書p87～95 143～154 復習：授業配布プリント
10	限局性学習症の理解と保育	6章限局性学習症について 11章職員間の協力関係について学ぶ。 予習：参考図書p96～99 155～161 復習：授業配布プリント
11	ADHDの理解と保育	6章ADHDについて 11章情報共有の方法を学ぶ。 予習：教科書p100～105 161～165 復習：授業配布プリント
12	多様なニーズのある子どもの理解と保育	7章多様なニーズのある子どもについて 12章関係機関との連携を学ぶ。 予習：参考図書106～114 168～181 復習：授業配布プリント
13	障害のある子の早期発見と支援	13章障害のある子どもの早期発見と支援について学ぶ。 予習：参考図書p182～193 復習：授業配布プリント
14	就学に向けての支援	14章障害のある子どもの就学先の理解や就学相談の実践について知る。 予習：参考図書p194～207 復習：授業配布プリント
15	障害のある子の保育にかかわる現状と課題	15章・16章医療・保健の現状と専門機関との連携や支援について学ぶ。 予習：参考図書208～220 復習：授業配布プリント

《専門科目》

科目名	保育のピアノ基礎Ⅱ				
担当者氏名	越智 光輝、山田 真澄、平峯 章生、渡邊 公実子、脇岡 龍耶				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 2-2 知識・技能 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園といった保育の現場での、ピアノを用いた音楽を伴う表現活動を実践できる人材となるために、個人レッスンによる指導を中心に、ピアノ曲（バイエル、ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタ）と童謡（子どもの歌）の弾き歌いの発表について、隔週で交互に取り組む。

《授業の到達目標》

保育の現場で求められる鍵盤楽器演奏能力における基礎技能を身につけることで、
・合格基準にもとづいて童謡の弾き歌いを6曲以上習得することができる。
・参考図書①～③より指定された1曲のピアノ曲を最後まで演奏できる。

《成績評価の方法》

ピアノ実技成果発表45%、童謡の弾き歌いの合格数55%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

越智光輝 「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ！ レベルにあわせて楽しく弾ける50曲」
三恵社

《参考図書》

(1) 進捗状況に応じて次の①～③より各自で用意する。課題曲は、レッスンカードを参照すること。
①全訳バイエル 全音楽譜出版社
②ブルグミュラー25練習曲 全音楽譜出版社
③ソナチネアルバムⅠ巻 全音楽譜出版社
(2) 入学前教育及び授業内で配布されたプリント

《授業時間外学習》

授業（個人レッスン）は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つけた課題を解決する場と捉え、教員から提示された次回の授業までの課題曲を、自己学習しておく。（本授業では15時間の時間外学修が必要です。）

《課題に対するフィードバック等》

童謡の弾き歌い発表及び13週目もしくは14週目に実施するピアノ実技成果発表について、実施後、授業内で改善点に関するフィードバックをバーバルコミュニケーションにて行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:前期15週目に提示された童謡の弾き歌い発表、3・4班:前期15週目に提示されたピアノ曲及び2週目で発表する童謡〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
2	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:前期15週目に提示されたピアノ曲及び3週目で発表する童謡、3・4班:1週目に決定した童謡の弾き歌い発表〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
3	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:1週目に決定したピアノ曲及び4週目で発表する童謡〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
4	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に提示されたピアノ曲、5週目で発表する童謡、3・4班:3週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
5	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:3週目に提示されたピアノ曲及び6週目で発表する童謡〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
6	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に提示されたピアノ曲、7週目で発表する童謡、3・4班:5週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
7	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:5週目に提示されたピアノ曲、8週目で発表する童謡〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
8	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に提示されたピアノ曲、9週目で発表する童謡、3・4班:7週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
9	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:7週目に提示されたピアノ曲、10週目で発表する童謡〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
10	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に提示されたピアノ曲、11週目で発表する童謡、3・4班:9週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
11	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:9週目に提示されたピアノ曲、12週目で発表する童謡〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
12	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に提示されたピアノ曲、15週目で発表する童謡、3・4班:11週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
13	ピアノ実技成果発表、童謡伴奏・ピアノ曲の習得	1・2班:ピアノ曲の演奏及び演奏の振り返り3・4班:11週目に提示されたピアノ曲、15週目で発表する童謡〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
14	ピアノ実技成果発表、童謡伴奏の習得	1・2班:15週目で発表する童謡、3・4班:ピアノ曲の演奏及び演奏の振り返り〔時間外学習〕次回にむけての練習（1時間）
15	童謡伴奏の習得、2年次における学び	童謡の弾き歌い発表、2年次での学修計画〔時間外学習〕発表にむけての練習（1時間）

《専門科目》

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

保育者として、乳幼児に対する適切に保育を行うことができるようになるために、
①保育所の内容、機能などを実際の体験を通して理解する。
②保育所の1日の保育の流れを把握し、子どもの実態を知る。
③乳幼児の生活場面における各領域の保育内容の展開について実践的に理解する。

《授業の到達目標》

保育所の内容や機能について、実際の体験を踏まえて具体的に説明することができる。
保育所における1日の保育の流れを把握し、子どもの実態に応じた保育者の援助や関わりを具体的に記述することができる。
乳幼児の生活場面における各領域の保育内容の展開について、実践場面と関連付けながら考察することができる。

《成績評価の方法》

実習先の評価50%、実習日誌40%、その他提出物等10%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

- 実習の手引き（国際学院埼玉短期大学幼児保育学科）
- 「改訂版 実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド」

《参考図書》

- 「改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社, 2023
- 「保育所保育指針」および「解説書」フレーベル館
- 汐見稔幸『保育所保育指針ハンドブック2017年告示版』学研, 2017

《授業時間外学習》

名札・自己紹介グッズの作成や絵本・紙芝居、素話の練習など、保育の現場にかかわる活動を自己学習の中で行う。
また、教材研究と指導案の作成を行う。

《課題に対するフィードバック等》

保育所での実習は、1年次に10日間行う。実習園からの評価は実習後の授業内において、対面で個別にフィードバックを行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	保育所実習	保育所における10日間90時間以上の実習の実施
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

保育士の職域は広がっており、児童福祉施設や障害者支援施設等における専門職としての活躍が求められる。本授業では、保育実習Ⅰ（施設）に向け、その意義や目的を理解し、実習遂行のための基礎的な知識・技術について学ぶ。また、地域連携のために必要な情報収集の方法などについても学ぶ。実習終了後の振り返りにおいて、今後の学修課題を明確化する。

《授業の到達目標》

- ①施設の役割・機能を具体的に説明することができる。
- ②個別の支援計画の意義を理解しそれを論ずることができる。
- ③一人一人の状態に応じた関わりや支援の在り方を理解し、検討することができる。
- ④施設保育士としての自らの実践の課題を明確にし、述べることができる

《成績評価の方法》

実習前試験60％，グループワーク・発表20％，実習書類・ワークシート20％で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

- ①松本峰雄監修「より深く理解できる施設実習」萌文書林，2021
- ②「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

- 全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会発行，2018

《授業時間外学習》

保育実習Ⅰ（施設）履修が必須です。
実習までに、これまでに学んだ科目を振り返るとともに、実習先についての情報を調べるなどして、丁寧に把握するようにしてください。実習が終了した後に、振り返りシートや自己評価票を作成し、実習に向けての準備をしてください（授業時間外学習時間は15時間）

《課題に対するフィードバック等》

現場では施設内・外のような様々な職種、関係者との連携が必須です。ワークではメンバー間での意見交換のスキルや実習に取り組む姿などを評価し、適宜コメントします。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	実習の意義と目的、実習の流れ	保育実習Ⅰ（施設）の意義と目的、実習全体のプロセス 予習：テキスト①2～9、30～40ページを読む・復習：授業配布プリント
2	実習における基本的態度と各施設の把握	養護系・障害系・育成系各施設名と対象児・者の理解 乳児院の理解 予習：テキスト①10～11、60～63、114～117ページを読む 復習：授業配布プリント
3	オリエンテーション・養護系施設の役割と概要	養護系施設の法的位置づけとその役割 母子生活支援施設の理解 予習：テキスト①12～13、64～67、118～121ページを読む・復習：授業配布プリント
4	体調管理・養護系施設の日課と特質	養護系施設の一日の流れと施設の特質 児童養護施設の理解 予習：テキスト①14～15ページ、68～71、122～125を読む・復習：授業配布プリント
5	環境理解・障害系施設の役割と概要	障害系施設の法的位置づけとその役割 障害児入所施設 予習：テキスト①16～17、72～83、126～143ページを読む・復習：授業配布プリント
6	調査作成・障害系施設の日課と特質	障害系施設の一日の流れと施設の特質 障害者支援施設 予習：テキスト①26～27、100～107、168～175ページを読む・復習：配布プリント
7	日誌の書き方・障害系施設の日課と特質	障害系施設の一日の流れと施設の特質 児童発達支援センター 予習：テキスト①18～19、144～151ページを読む・復習：授業配布プリント
8	施設理解・育成系施設の役割と概要	育成系施設の法的位置づけとその役割 児童相談所一時保護所 予習：テキスト①28～29、96～99、164～167ページを読む・復習：授業配布プリント
9	記録の書き方・育成系施設の日課と特質	育成系施設の一日の流れと施設の特質 児童厚生施設 予習：テキスト①24～25、160～163ページを読む・復習：授業配布プリント
10	指導計画作成・実習関係書類の作成	指導計画の作成方法 実習施設や大学へ提出する書類の作成方法の学修 予習：テキスト①44～54ページを読む教科書 復習：実習書類下書き作成
11	指導案の作成・実習日誌の目的と作成方法	部分実習・責任実習における計画案の作成方法 予習：テキスト①56～59ページを読む・復習：教科書と授業配布プリント
12	実習前試験・確認	実習前試験・実習施設の理解に関するまとめ 予習：テキスト1～59ページの振り返り・復習：授業配布プリント
13	実習日誌の作成方法	実習後の施設への提出物と提出・受取方法，大学への提出物，お礼状の書き方 予：178～182ページを読む 既習事項の振り返り 復：試験結果の振り返り
14	実習の総括と自己評価	実習先評価や実習日誌・自己評価から見る自己課題の明確化：今後の学修計画の検討 予習：実習日誌・自己評価の振り返り 復習：自己課題の明文化
15	実習報告会	実習総括と自己評価のまとめと発表 予習：自己課題の明文化資料 復習：既習事項の振り返り

《専門科目》

科目名	保育実習Ⅰ（施設）				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

保育士の職域は広がっており、保育所以外の養護系や障害系育成系などの施設などにおいての活躍が期待されている。本実習では、それぞれの施設の役割・機能、利用・児者の置かれた状況などについて学ぶとともに、具体的な支援についての計画を作成したり、関係機関との連携の方法などについてグループワークなどで学びを深める。

《授業の到達目標》

- ①施設の役割・機能について、体験を基に具体的な説明ができる。
- ②一人一人の支援計画を理解し、考察した内容を説明できる。
- ③一人一人の状態を踏まえた支援を考え実践できる。
- ④実習における観察・記録・省察を通して施設保育における実践を改善することができる。

《成績評価の方法》

実習施設による評価50％、実習後の提出物の状況・実習への参加状況・実習日誌の記述内容（上記到達科目を観点とする）50％とする。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

- ①松本峰雄監修「より深く理解できる施設実習～施設種別の計画と記録の書き方～」萌文書林, 2021
- ②「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

- 全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会, 2018

《授業時間外学習》

保育実習指導Ⅰ（施設）履修が必須です。実習までに、これまでに学修した科目を振り返るようにしてください。振り返りシートや自己評価票作成を各自で行い、2年次実習に向けて準備を進めてください。地域連携のための学びとして、実習先の地域の関係機関などの情報を調査するなど積極的に行ってください。

《課題に対するフィードバック等》

振り返りシートや自己評価票を実習先の評価と比較して、今後の学修に役立てます。実習中は訪問担当教員から実習内容についてフィードバックしていきます。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	施設実習	居住型施設・通所型施設等における実習の実施
2	施設の一日の流れの理解	施設での生活、一日の流れ（生活の流れやプログラム・活動の流れ）について実践を通して理解する
3	施設の役割・機能の理解	実習での具体的取り組みを通して、実習施設の役割は何か、どのような機能を有しているのかについて理解する
4	観察と記録を通じた利用児・者の理解	実習施設の利用児・者の観察と記録を通して、実際のくらしや活動といった実態を把握し、将来を見据えた支援について考察を深める
5	個々の状態に応じた支援	実習施設の利用児・者との関わりと支援を通して、それぞれの施設の役割・機能、個々の対象に対する支援方法や技術について理解を深める
6	計画に基づく活動や援助・支援	実習施設の理念・目的、個々の支援計画に基づく活動や援助・支援がどのように実践されているのかを理解し、活動・支援を実行して理解を深める
7	利用児・者の心身の状態に応じた対応	日々の生活を通して健康状態や心理状態、疾病の状態は変化する。施設職員はどのように関わっているのかを理解し、自らも実践する
8	利用児・者の活動と生活の環境	実習施設の利用児・者の活動・生活環境はどのような目的で構成・構築されているか、実践を通して理解する
9	健康管理・安全対策の理解	実習施設において、利用児・者及び職員の健康管理や安全対策はどのように実行されているか、職員との関わりや聞き取り等によって理解し、実践する
10	支援計画の理解と活用	個人情報の取り扱いについて配慮したうえで、利用児・者の状態と支援計画について理解し、どのように支援計画が活用されているか実践を通して理解する
11	記録に基づく省察・自己評価	実習日誌に、自らの関わりや考えを言語化し整理することを通して、実習施設及び利用児・者への理解を深めることや支援の改善に努める
12	保育士・生活支援員の業務内容の理解	実習施設における保育士及び生活支援員等はどうような役割・業務内容を担っているか、観察や実践を通して理解する
13	職員間の役割分担と連携についての理解	様々な専門職が配置されている施設で各職員がどのような役割を担い、利用児・者のためにどのような連携が行われているかを実習を通して理解を深める
14	保育士の役割と職業倫理についての考察	施設実習を通して、社会福祉領域の専門職である「保育士」の役割とは、職業倫理とは何か、具体的な説明を試みる
15	施設実習の振り返りと自己課題の明確化	実習施設での観察・実践、実習日誌への記録による振り返りを通して、保育士としての自己評価及び今後の新たな課題について明確にする

《専門科目》

科目名	教育実習 I				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

幼稚園等における5日間の教育実習（観察・参加実習）を行う。保育活動に参加しながら幼児の活動や教員の実践を観察し、幼稚園における1日の保育の流れ、幼児の活動と生活、保育環境の在り方を学ぶとともに、幼稚園教諭の仕事内容を知る。将来教諭となるべく必要な知識を体験的に学ぶ。

《授業の到達目標》

○幼児との関わりや観察・参加を通して、幼児の発達段階ごとの活動の実態や興味関心について把握することができる。○子どもの姿や保育者の援助・配慮等について、事実に即して記録することができる。○幼児に接しその成長の援助を行うことに喜びを感じ、誠意をもって実習に取り組むことができる。○各自のテーマや当該実習のねらいに即した振り返りができる。

《成績評価の方法》

実習日誌50%、実習先評価40%、提出物10%で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

○幼稚園教育要領および同解説 ○小櫃智子他編著「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 改訂版」わかば社 2015 ○実習の手引き（国際学院埼玉短期大学幼児保育学科）

《参考図書》

○「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」および同解説
 ○大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規 2020
 ○植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006
 ○無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研 2017
 ○保育用語辞典

《授業時間外学習》

〔実習前の学習〕○実習生として求められる最低限の社会的良識を備えておく。○絵本読み、手遊びなどの基礎を学んでおく。○実習園にてオリエンテーションを実施し、その記録をまとめておく。〔実習中〕○当日の実習日誌を記録し、次の日の課題を把握する。○その他、教育実習指導 I の講義内容を再確認し、事前・事後学習を十分に行うこと。

《課題に対するフィードバック等》

実習日誌等の提出物は内容を確認した上で受領、コメントを付して返却を行う。実習園からの指導については、適時口頭等にてフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	5日間の観察・参加実習	保育に参加し、①幼稚園の流れを理解する、②子どもの行動を理解し関わり方を学ぶ、③教師の役割・職務について学ぶ。〔事前・事後学習〕実習日誌を作成する
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		